資料５

ガバメントAI 源内

ガバメントAI源内における最近の動き

2026/11/13　デジタル庁　省庁業務サービスグループ　ガバメントAI実装担当（源内班）

デジタル庁
Digital Agency

ガバメントAI源内における最近の動き

① ガバメントAI源内における「AIエージェント」利用環境の導入開始（10/20）

② ガバメントAI源内 ガバナンス・セーフティ・セキュリティに関する基準（“源内基準”）の策定・公表（10/20）

③ 国会答弁作成支援AIアプリのリリース（10/30）

④ ガバメントAI源内における利用状況アンケート調査（第１回）結果公表（10/30）

①AIエージェント利用環境の導入

① ガバメントAI源内におけるAIエージェント利用環境の導入（10/20）

- 世界的にコーディングエージェントの利用が広がり、専門知識がなくとも、自然言語（日常の言葉）による指示を通じて、プログラミング、ファイルの作成、データ分析、スキルの作成・実行、成果物の検証までを利用者が主体的に行える技術革新が進行中
- ガバメントAI源内においても本年10月以降、「AIエージェント」利用環境を導入し、チャットや定型的なAIアプリの提供にとどまらず、政府職員自らがAIエージェントを活用できるようにすることで、より一層、政府業務の省力化や質の向上の実現を目指す。

これまで（～令和８年９月）

チャット　AIアプリ

- 源内のWeb上で予め用意されたAIアプリは、文書作成、要約、翻訳等の汎用的な業務には有効
- 他方、複数ファイル、膨大なデータ及びインターネット検索を用いた連続的作業や、行政固有の判断基準を伴う審査プロセス等の業務をAIアプリで支援させるには限界

＋

これから（令和８年10月以降、各府省庁等に順次展開）

AIエージェント利用環境

①エージェントチャット
（通常のチャットの発展形）

AIが複数工程を自律的に実行

- 通常のチャット（対話型AI）を発展させ、自然言語による指示が可能なAIエージェント利用環境*1を提供
- 一度の指示で複数のタスクをまとめて自動実行でき、処理結果はファイルやドキュメントとして出力可能

②源内工房
（個人用Webアプリ開発環境）

個人でWebアプリを開発可能

- 自然言語による操作が可能な、個人専用のAI Webアプリ開発環境を提供
- プロトタイプの開発や、複数のウェブサイトを参照・情報収集するDeep Research等が可能

③源内ライブラリ
（スキル*等の政府横断共有）

政府横断でスキル等を共有

- 職員の経験に依存していた「暗黙知」を、再現可能な「形式知」（=スキル）へ変換
- 作成したスキルを、組織内外で横断的に共有等することで、個人の知識を政府組織の「集合知」へと発展させるもの

より一層の業務省力化・質の向上

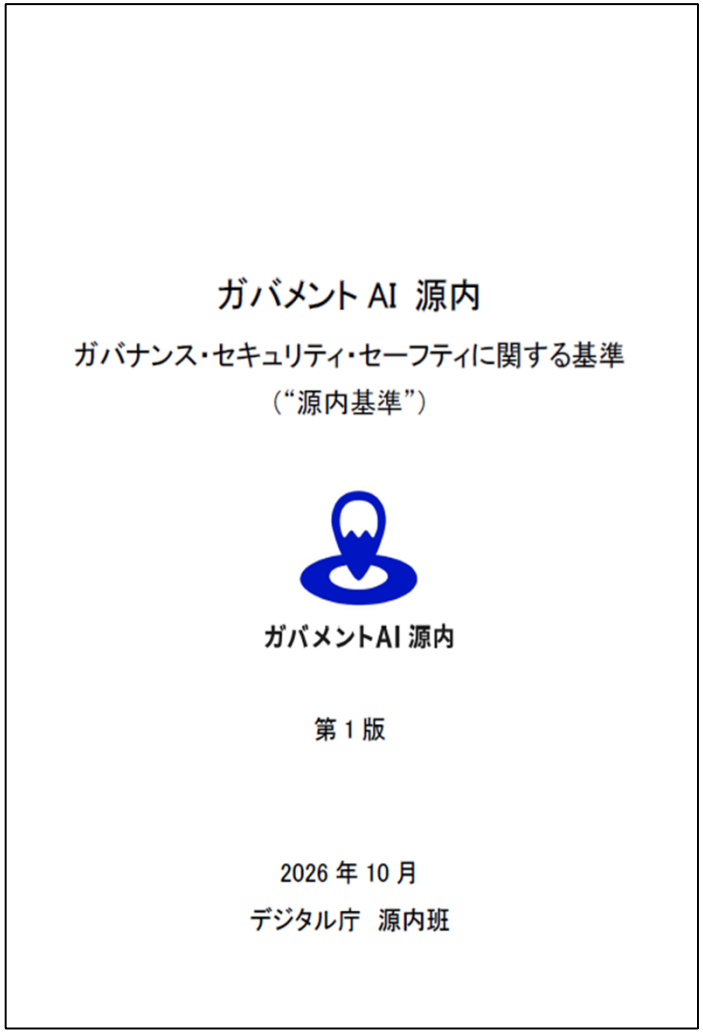
各職員の業務需要に応じたAIアプリ開発の実現

- 優良なスキルの横展開
- 業務品質の均一化
- 政府全体の行政能力向上

* スキル：従来、個々の職員や部局に属人的に蓄積されてきた業務手順、判断基準、参照資料、関連データ、確認方法、出力形式、例外処理等を、AIエージェントが実行可能な形で可視化・形式知化したもの

②源内基準の策定・公表

② 源内基準の策定・公表（10/20）


ガバメント AI 源内

ガバナンス・セキュリティ・セーフティに関する基準

（“源内基準”）

ガバメントAI 源内

第 1 版

2026 年 10 月

デジタル庁　源内班

1. デジタル庁は、約18万人の政府職員が利用可能な「ガバメントAI源内」を通じて、本年10月から、「AIエージェント」(注)の利用が可能な環境を提供し、AIによる政府業務の省力化・質の向上をより一層推進

（注） 特定の目標を達成するために、環境を検知し自律的に行動するAIシステム（「AI事業者ガイドライン第1.2版」（2026.3.31総務省・経産省）に基づく）

2. AIエージェントは、AIが自律的な判断・行動を繰り返すため、これまで以上に、利用に際しての規律や注意すべき事項が求められる。このため、源内の利用者（政府職員）、管理者及び開発者ごとに、利用・開発等におけるルールの遵守を徹底する必要

「ガバメントAI 源内 ガバナンス・セキュリティ・セーフティに関する基準」（“源内基準”）を策定・公表

- 源内基準は、政府におけるAIの安全・安心な利活用に向けた取組として、AIエージェントの導入を検討する地方公共団体や民間事業者等にとっても参考となるもの

- 源内のAIエージェント利用環境については、地方公共団体や民間事業者等においても広く活用されるよう、2027年２月を目途に、商用利用が可能なライセンスのもと、「源内OSS(オープンソースソフトウェア)Ver.2.0」として、利用・改変・再配布が可能な形で無償公開する予定

（注） 源内OSS（オープンソースソフトウェア）Ver1.0は2026年4月に公開

② 源内基準の策定・公表（10/20）

1　総 論

1－1　源内基準の策定背景及び位置付け

1－2　源内の基本理念及びガバナンス原則

人間中心のAI利用、AI利用における責任主体の明確化、ガバメントクラウドによる安全なAI利用環境の確保、政府職員の入出力データの保護、政府職員による主体的な源内開発、自律性・代替性・耐遮断性に関するAIソブリンティの確保、AIソブリンティを支える疎結合構成、利用状況の可視化と透明性向上、トークンマネジメントの推進、基盤モデルの主体的な選定及び評価

1－3　源内の具体的な取組

源内が対象とするAIの範囲、政府職員向けAIアプリの内製・展開、行政実務用RAGアプリの受託開発と政府横断展開、高品質な政府共通データセットの整備、政府共通データセットの加工・品質管理及び標準化、国内外の基盤モデルの適切な選択、基盤モデルの評価・選定体制の確立、国産基盤モデルの育成・発展への寄与、源内のオープンソースソフトウェアの公開、他府省庁や地方自治体の業務用AI基盤との連携

1－4　AIエージェント利用環境の基本方針及びガバナンス

AIエージェント利用環境の導入方針、AIエージェントによる行政実務の高度化、政府が主体的に管理できるAIエージェント利用環境、エージェントチャットの位置付け及び機能、源内工房の位置付け及び機能、スキルの共有・再利用基盤（源内ライブラリ）の導入、行政手続等におけるAI利用の統制及び記録

1－5　源内における機密性情報の取扱い

1－6　源内の出力情報に係る行政文書の取扱い

2　利用者の責務及び遵守事項

2－1　利用者とは

2－2　利用者が遵守すべき基本原則

AIの積極的な活用、AIリテラシーの向上と倫理観の保持、AI活用における専門性と判断力の維持、ヒューマン・イン・ザ・ループの確保、ハルシネーションに対する注意、プロンプトインジェクションへの警戒、リスクベースアプローチの採用、高リスクな生成AI利活用の判定、シャドーAIの利用禁止、人物に関する情報等の適正な取扱い、トークンマネジメントの推進

2－3　エージェントチャット

利用者が理解すべきリスク、利用者が遵守すべき事項

2－4　源内工房

源内工房の特性と利用者が理解すべきリスク、利用者が遵守すべき事項

3　管理者の責務及び遵守事項

3－1　管理者とは

3－2　各府省庁等における内部ガバナンス

3－3　各府省庁等への「テナント管理者機能」の提供

3－4　利用状況及び利用費用の把握

3－5　エージェントチャットの利用管理及び安全管理措置

管理者が講ずべき措置、
システムの機能制限及び安全管理措置

3－6　源内工房の利用確認及び安全管理措置

管理者が講ずべき措置、
システムの機能制限及び安全管理措置

4　源内開発者の責務及び遵守事項

4－1　源内開発者の位置付け及び役割

4－2　開発及び運用に用いる環境

開発環境、ステージング環境、本番環境、共通環境

4－3　開発・運用権限の分離及び変更管理

権限及び責任の分離、本番環境の変更承認、デプロイ権限及び自動化、変更内容のレビュー、データセットの変更管理、GCAS管理権限の付与及び管理

4－4　開発・運用上の行動原則

確認すべきガイドライン群、合理的に説明できる技術選定、開発及び運用におけるAIの活用、国内外の最新動向の継続的把握、不確実性の早期低減　等

4－5　源内の開発・運用におけるセキュリティ等の統制

脆弱性への対処、セキュリティ事象への即応、変更の追跡可能性、監査証跡の不可変性、権限の最小化と分離　等

③国会答弁作成支援AIアプリのリリース

③ 国会答弁作成支援AIアプリのリリース（10/30）

【国会対応業務における課題】
- 国会答弁の作成は、限られた時間の中で、高い正確性や一貫性が求められる、**職員の業務負担が大きい業務**の一つ
- 職員は、質問内容の確認から、過去答弁や根拠資料の検索・分析、答弁案作成に至るまで、多岐にわたる作業を短期間で行う必要
- 社会課題の複雑化に伴い、政策の背景や経緯の把握、追加質問への対応など、検討すべき事項が増加
- このため、質問の趣旨を的確に捉え、分かりやすく的確な答弁内容を十分に検討するための時間を確保することが課題

国会答弁作成支援AIアプリ（答弁支援AI）の開発（2026年4月～）
→開発実証事業はデジタル庁からNTTドコモビジネス株式会社に委託
→生成AIによる情報の検索・整理、答弁案の生成、内容の検証支援等を通じて、国会答弁作成業務の効率化と質の向上を目指す

- 開発に当たっては、16省庁から公募した実務経験豊富な職員102名が評価者として参画
- 画面構成や操作性、必要な機能等について幅広く意見を収集するとともに、改善提案の一部は機能改修に反映
- 評価者にプロトタイプを試してもらった結果、アンケート回答者の約8割が「答弁支援AIを利用したい」と回答

今回
ガバメントAI 源内において、答弁支援AIのプロトタイプ版を約18万人の政府職員に提供（10月30日～）

- 本システムは職員の業務を補助するためのものであり、**職員の判断をAIに委ねるものではない。**
  - 政策の解釈や判断、政府としての見解の整理、答弁内容の確定等は、従来どおり、関係職員が責任をもって行う。
  - 担当職員及び関係部局が十分に答弁案を精査・調整した上で、大臣等の答弁者が責任をもって答弁を行う。
  - 事実と異なる内容や根拠のない情報を、もっともらしく生成する「ハルシネーション」等のリスクがある。このため、事実関係の正確性、過去の答弁や政府方針との整合性、表現の適切性等を十分に確認しながら本システムを使用する。

試用した職員からのフィードバックを踏まえ、更に機能改修

2027年1月～　常会において本格提供を開始（予定）

© Digital Agency, Government of Japan

【参考】国会答弁作成支援AI開発におけるプロトタイプ評価ワークショップ（2026年7月）









- 開発に当たっては、16省庁から公募した実務経験豊富な職員102名が評価者として参画
- 国会答弁作成支援AIのプロトタイプ（試作機）に関するワークショップをデジタル庁で開催
  - 7月14日・15日・16日の3日間（一回3時間）
  - 15省庁の若手職員39名が参加
- 画面構成・操作感に関するフィードバックを得つつ、政府職員が必要とする機能について活発に意見交換

④源内利用状況アンケート調査結果

アンケート調査結果のサマリ

© Digital Agency, Government of Japan

アンケート調査実施概要

実施目的

■ 実施目的

ガバメントAI 源内の導入後の効果を定量的・定性的に明らかにする。

■ １回目と２回目の違い

- １回目：源内の利用開始後の初期段階での利用実態やユーザーの満足度等を収集し、利用促進に向けた課題を明らかにする。
- ２回目：AIエージェント利用環境の導入等による、職員の声の変化を収集し、効果を明らかにする。

対象者

源内を利用する各府省庁等の政府職員

（衆議院事務局・最高裁判所事務総局を含む。）

**実施回数
実施時期**

計２回実施

- １回目：令和８年８月21日～９月18日
- ２回目：令和９年１月頃（予定）

実施ツール

Microsoft FormsによるウェブアンケートMicrosoft Formsによるウェブアンケート

設問概要

下記分類で22問作成（２回目は質問を追加予定）

- 回答者属性
- 利用実態
- 満足度
- 業務時間、質の変化とその具体的エピソード
- 源内の利用に際する課題・障壁
- 改善・サポートのニーズ

回答数

今回（１回目）：6,439人

- 本省・本庁　2,467人
- 地方支分部局　3,972人

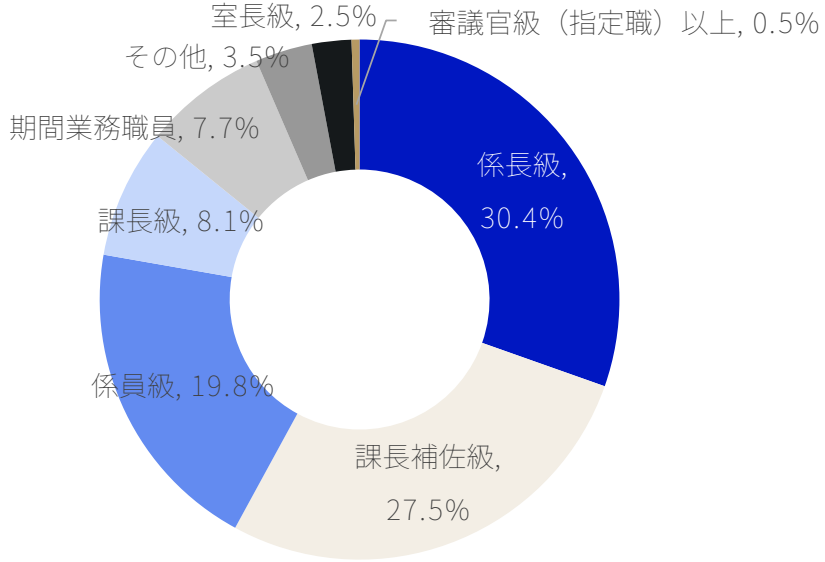
© Digital Agency, Government of Japan

回答者属性・源内への満足度

係員～課長補佐級をボリュームゾーンとしつつ、課室長級以上からの回答も得ている。
源内の利用者の71.7%が「満足」（「とても満足」16.0%、「やや満足」55.7%）と回答。

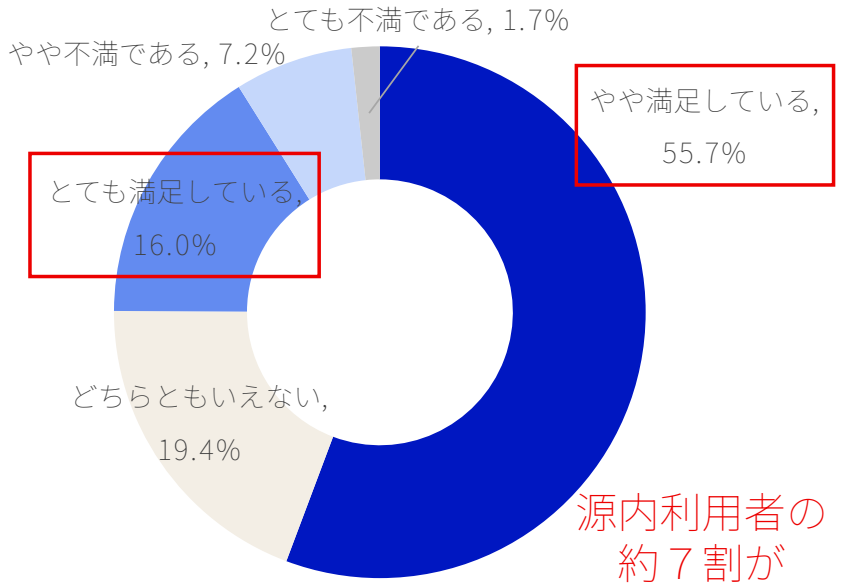
回答者属性

n = 6,439（単一回答）



源内への満足度

n = 3,078（単一回答）



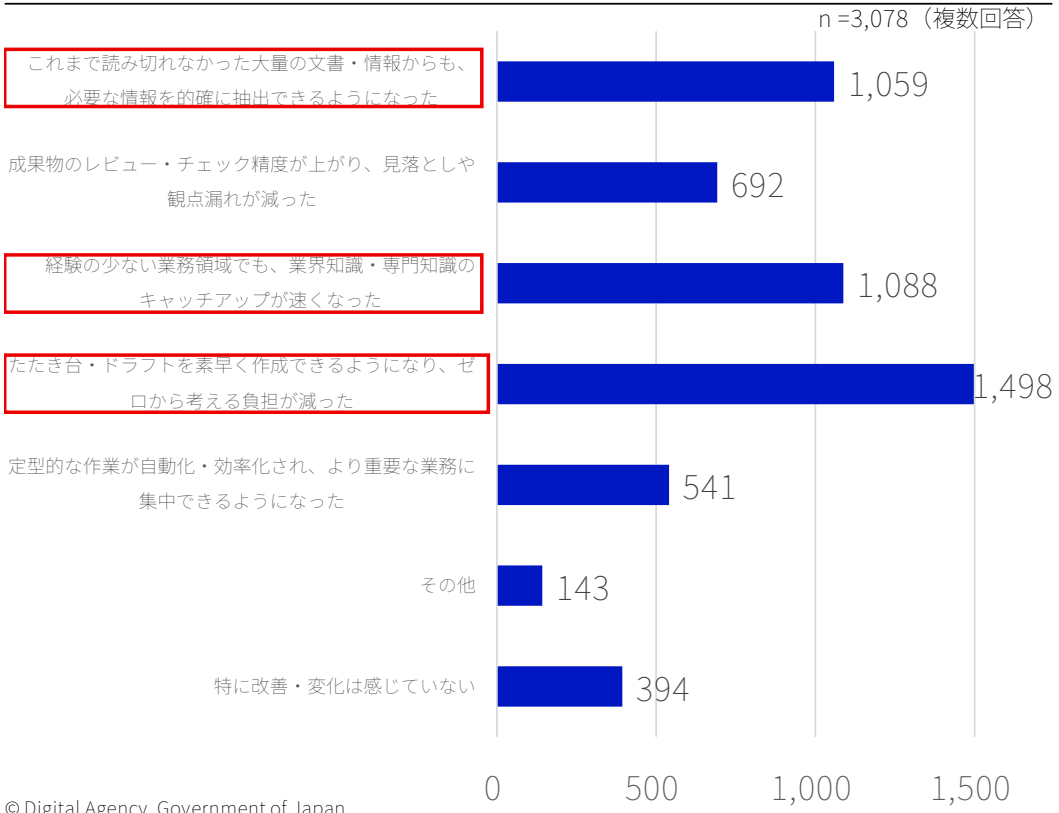
源内利用者の
約７割が
「満足」と回答

© Digital Agency, Government of Japan

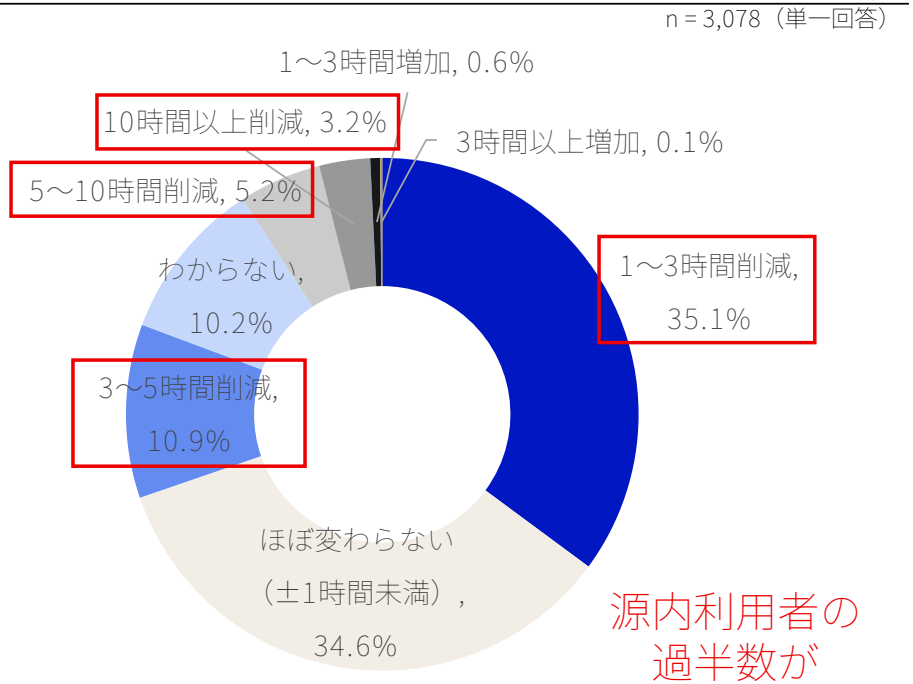
源内の利用による業務改善・業務時間削減

源内の利用による業務改善は「たたき台の迅速な作成によるゼロから考える負担の軽減」「専門知識のキャッチアップの迅速化」など。源内を導入した業務において、利用者の54.5%が１週間当たりの業務時間を１時間以上削減。
AI導入による業務時間の短縮効果は、利用者1人当たり週約1.83時間（約110分）と推計される（※）。

源内の利用による業務改善



AIを導入した業務における業務時間の変化（１週間あたり）



源内利用者の過半数が業務時間を削減

※「１～３時間」「３～５時間」「５～10時間」は、それぞれ区間の中央値を採用。「10時間以上削減」は、保守的に10時間と仮定。「３時間以上増加」は、３時間と仮定。「ほぼ変わらない（±1時間未満）」「わからない」は、計算上0時間と仮定。

© Digital Agency, Government of Japan

源内の利用による業務改善・業務時間削減

源内の活用により節約できた時間を、より踏み込んだ検討や従来対応できなかった業務に振り向けることで、業務の質が向上。業務の外注からの内製化や、働き方の改善にもつながっている。

源内を利用する前と比較して、源内を利用することで「既存業務の質が向上した」、
「これまでできなかったことができるようになった」などの業務が改善した場面（自由記載回答*）

業務の質の向上

- 特に効果が大きかったのは、説明資料、FAQ、報告書等のたたき台を短時間で作成できるようになったこと。（略）本来職員が注力すべき部分に時間を充てられるようになった。
- １週間以上作業時間が短くなったように感じる。別の案件対応や、課や係の業務改善を考えられる余裕が生まれた。今や源内は業務になくてはならない存在になった。
- 文章案の作成を短時間で行うことができ大変助かった。時間短縮につながらなかったと回答したが、これまで対応できなかった業務が源内を使うことで対応可能になり、新たな業務に取り組むことができたため（同じ時間内により多くの業務をこなすことができるようになった）。

外注からの内製化

- 業務時間削減ではないが、以前は業務委託を行い半年から１年かけて策定していたガイドライン作成を、業者を使わず内製で３か月程度で完成させることができている。
- これまでBCM専門家のノウハウで企画・設計・実施・評価していた「BCM演習」が、源内で再現できるまでになった。専門家が介入せずBCM演習を庁内に浸透・定着化させ、弊庁のレジリエンス強化につなげたい。

働き方の改善

- 業務時間が削減されたおかげで、時間的制約がある、子育て中の私でも、家庭を犠牲にせずに働くことができている。
- 削減された時間を有効活用し、別の案件対応に時間を割くことができ、結果的にワークライフバランスの向上につながった。
- 単純作業を源内を用いて省力化でき、もっと重要なことに充てる時間を増やすことができ、勤務時間で感じるやりがいが向上した。

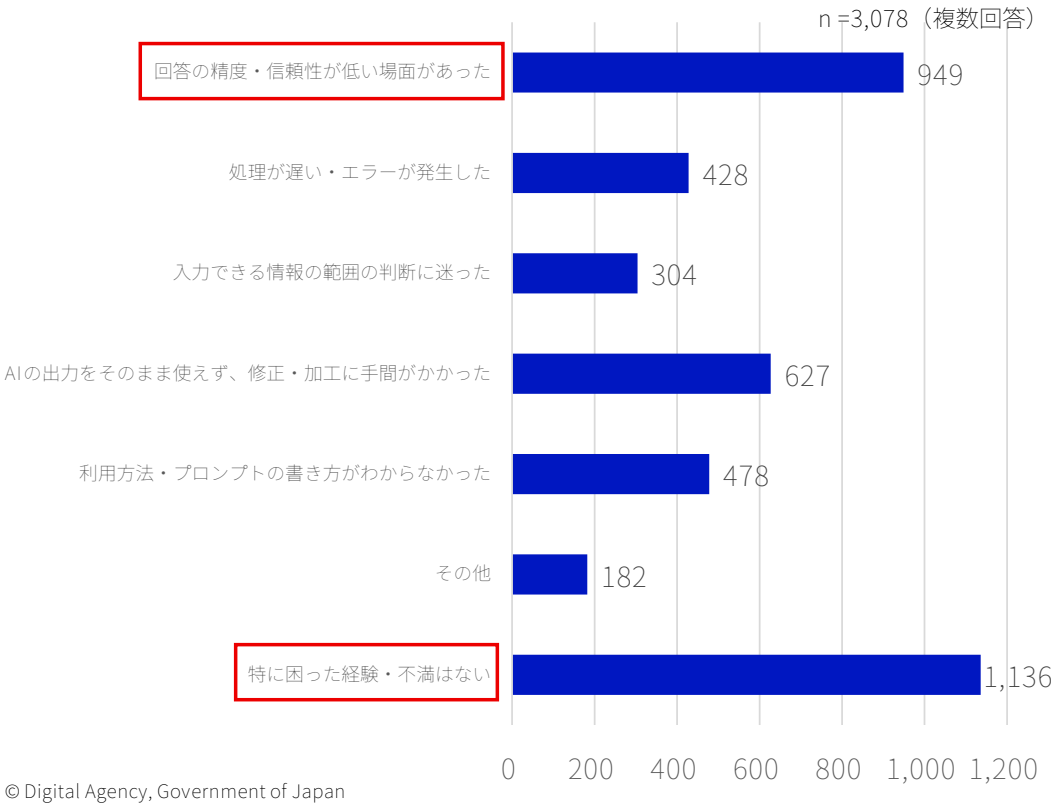
© Digital Agency, Government of Japan

*自由記載回答は、常体（である調）に統一の上、一部抜粋。

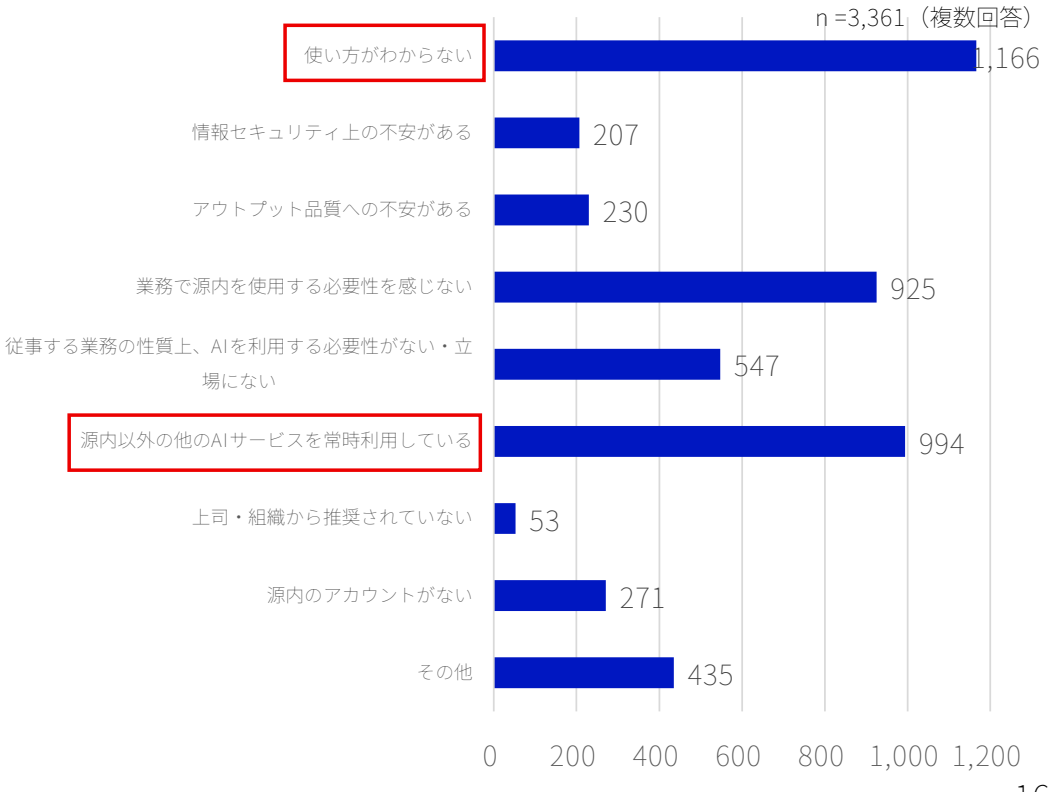
源内への懸念・利用しない理由

源内を利用する場合の懸念は、最多の「特に困った経験・不満はない」を除き、「回答の精度・信頼性が低い場面がある」など。源内をほとんど・全く利用しない場合の理由は、「使い方がわからない」、「源内以外の他のAIサービスを常時利用している」など。

源内の利用による懸念



源内をほとんど・全く利用しない理由

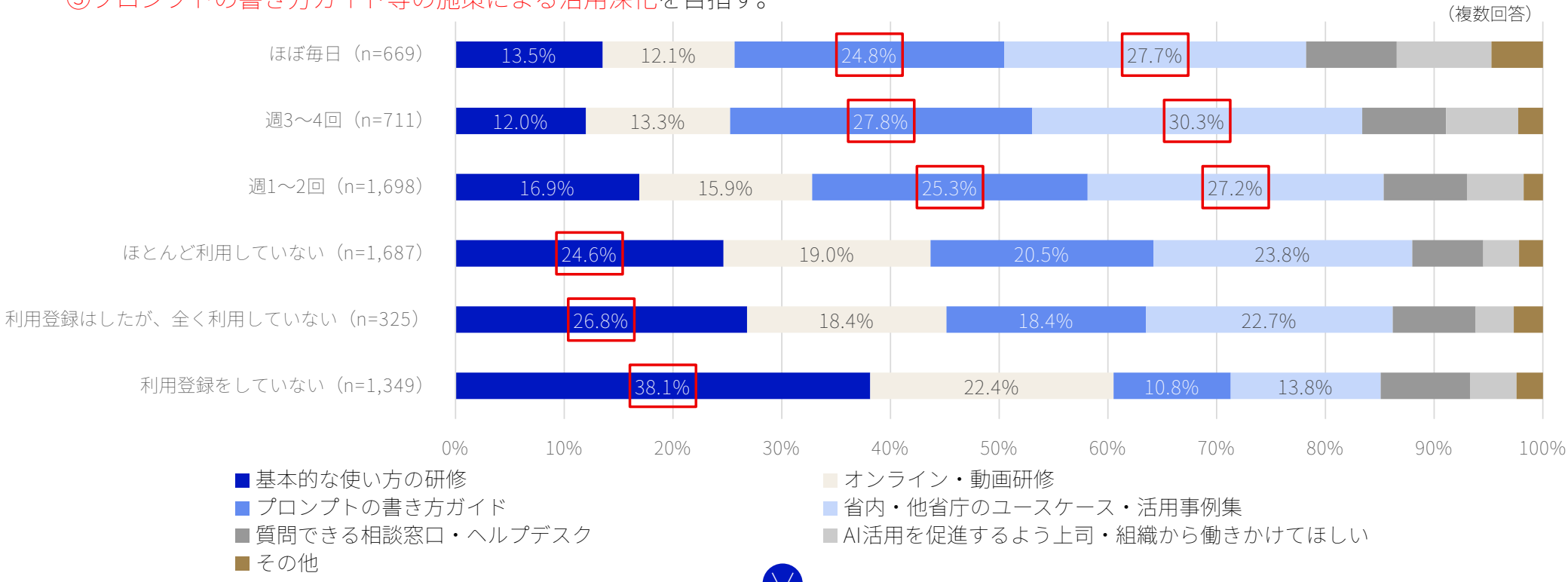


© Digital Agency, Government of Japan

職員が実施して欲しいサポート・研修

週１～２回以上利用する職員は「ユースケース・活用事例集」や「プロンプトの書き方ガイド」、「ほとんど・全く利用していない」「利用登録をしていない」職員は「基本的な使い方の研修」の要望が多い。

➜ 源内の導入効果の拡大に向けて、①未登録・低利用層への導入支援（使い方研修）、②他府省のユースケース・活用事例集の充実、③プロンプトの書き方ガイド等の施策による活用深化を目指す。



①未登録・低利用層への導入支援（使い方研修）

②他府省庁の活用事例集の充実

③プロンプトの書き方ガイド

© Digital Agency, Government of Japan

*回答割合が10%以下のものはデータラベルを割愛

源内への懸念・要望に対する今後の展開

回答精度、ファイル入出力等に対する要望には、AIエージェント利用環境の導入によって一定程度の解決が可能。
来年１月頃に２回目のアンケート調査を実施し、AIエージェント利用環境の導入後の変化を検証予定。

	源内への懸念・要望	AIエージェント利用環境における改善（2026年10月20日以降）
回答精度	• 期待通りの結果が得られにくい。	• 回答の根拠（出典URL・参照ファイル）を確認可能。多くの検索結果を照らし合わせて回答をまとめるため、特定の情報源だけに頼らずに済む（※根拠や出典は必ず元の情報源で要確認）
ファイル入出力	• ファイルのサイズ上限、種別、数の制約の緩和 • 毎回必要情報をすべてアップロードしないと作業ができない	• １ファイル数百MBまで、PDF・Word・Excel・PowerPoint・CSV・テキスト・画像に対応。マイドライブには数万ファイル以上を置ける（ローカルPCや共有フォルダは非接続）。Word・Excel・PowerPoint等のファイル作成可能
処理速度エラー	• エラーが吐き出されて仕事が進まないことが多い	• 動作が遅い・エラーが出るといったときも含め、回答ごとに「良い」「悪い」の評価を送信可能であり、いただいた内容を基に、原因の特定と解消を進める
アプリ	• AIアプリが多すぎて、選択するのが面倒 • どのアプリを使用するのが最適なのか分からない	• AIアプリを使い分けなくても、一つの画面でさまざまな作業を進められる
最新データの取得	• 最新のインターネット検索に基づく情報やURL指定先の情報も踏まえた結果出力	• 「ウェブ検索を含める」をONにすると、最新の情報を調べて回答し、参照した出典URLを表示
プロンプト	• 通常の業務に即したプロンプトの提供 • よく使うプロンプトの組織内共有などの機能	• 年度内に提供予定の「源内ライブラリ」（職員が作成したスキルやデータを、組織横断的に共有・活用するための仕組み）において展開予定
その他	• UIの改善 • 個別のアプリに関する要望　など	• 随時、改善を検討

© Digital Agency, Government of Japan

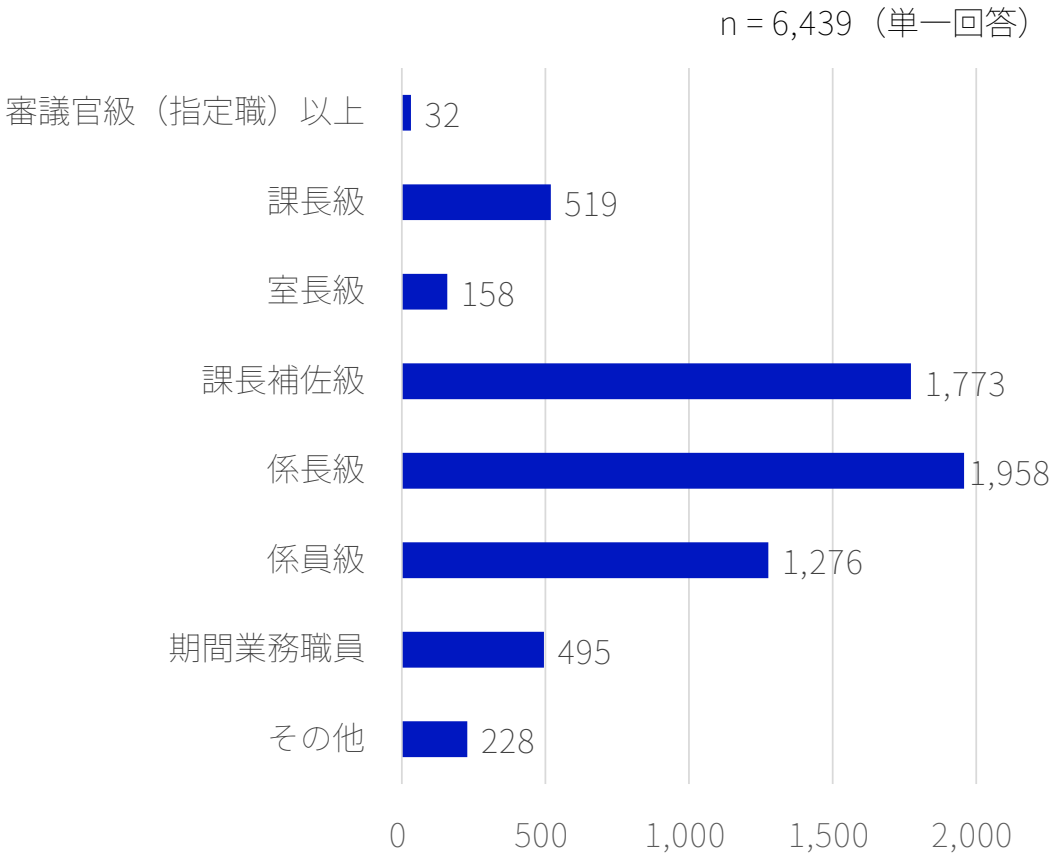
*自由記載回答は、常体（である調）に統一の上、一部抜粋。

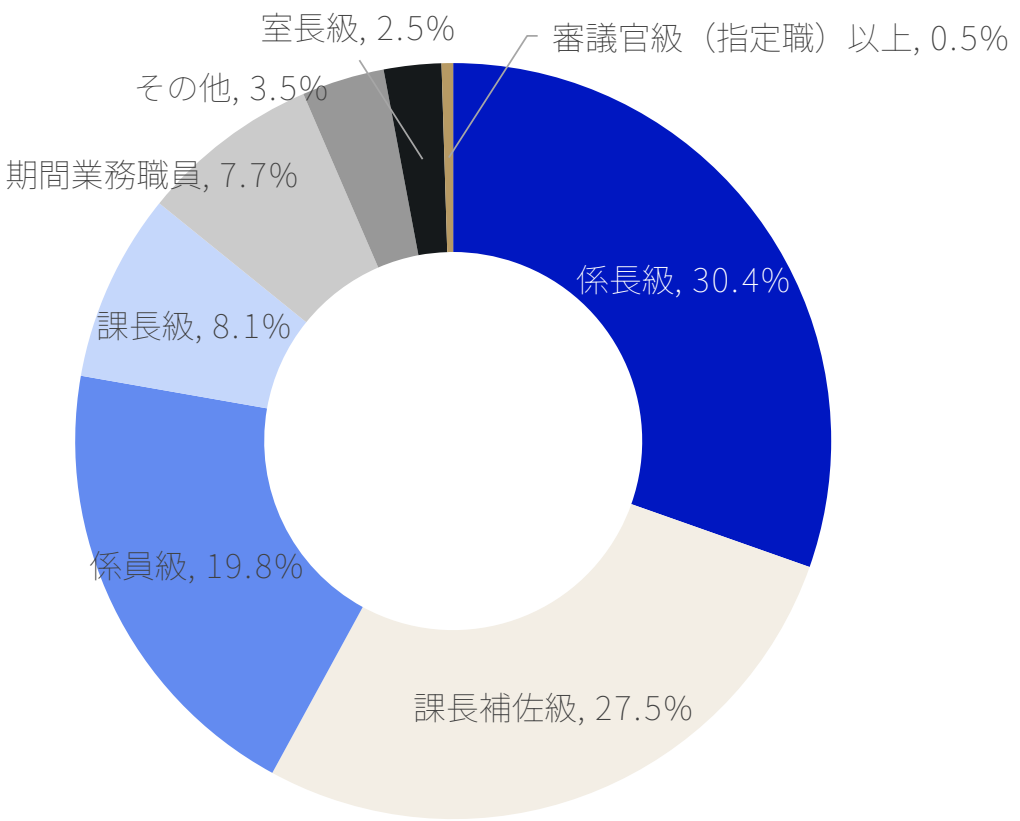
アンケート調査結果
集計結果

© Digital Agency, Government of Japan

回答者の役職

係員～課長補佐級からの回答が77.7%、室長～審議官級（指定職）以上からの回答が11.1%となっている。

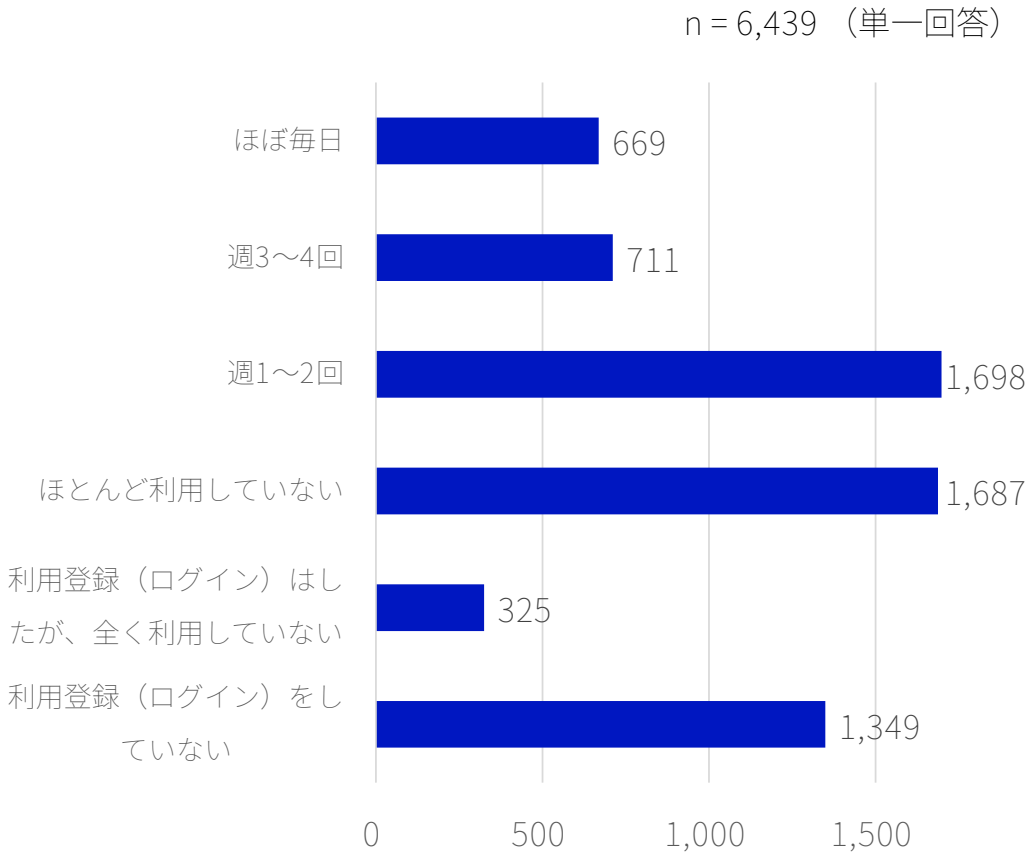


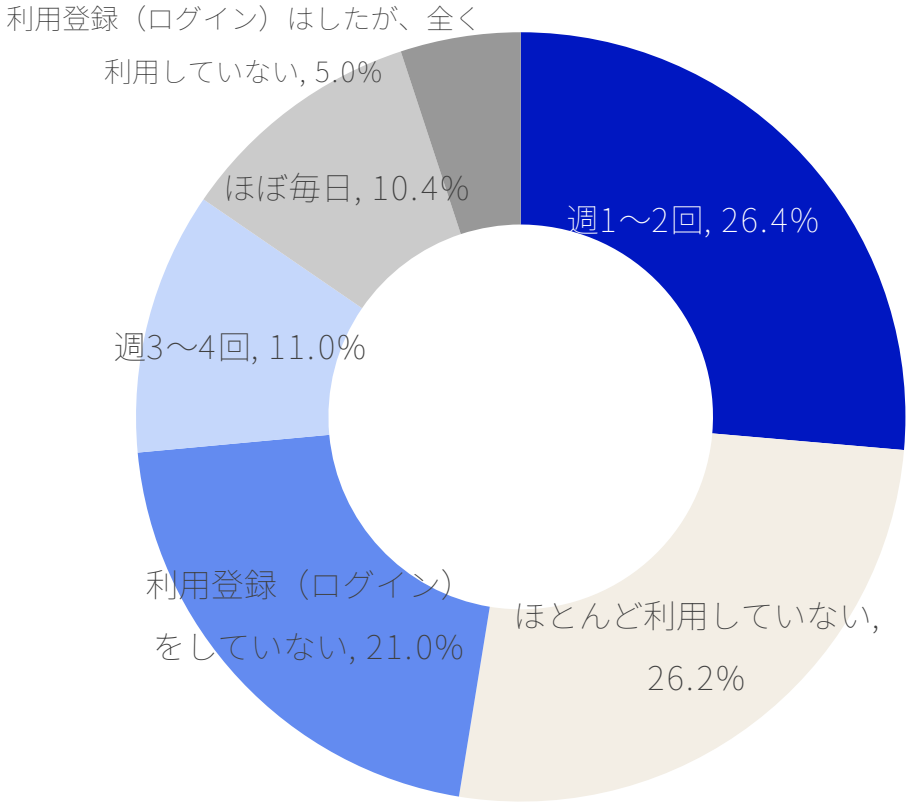


© Digital Agency, Government of Japan

源内の利用頻度

週１～２回以上利用する職員が47.8%、ほとんど若しくは全く利用していない職員が31.2%となっている。

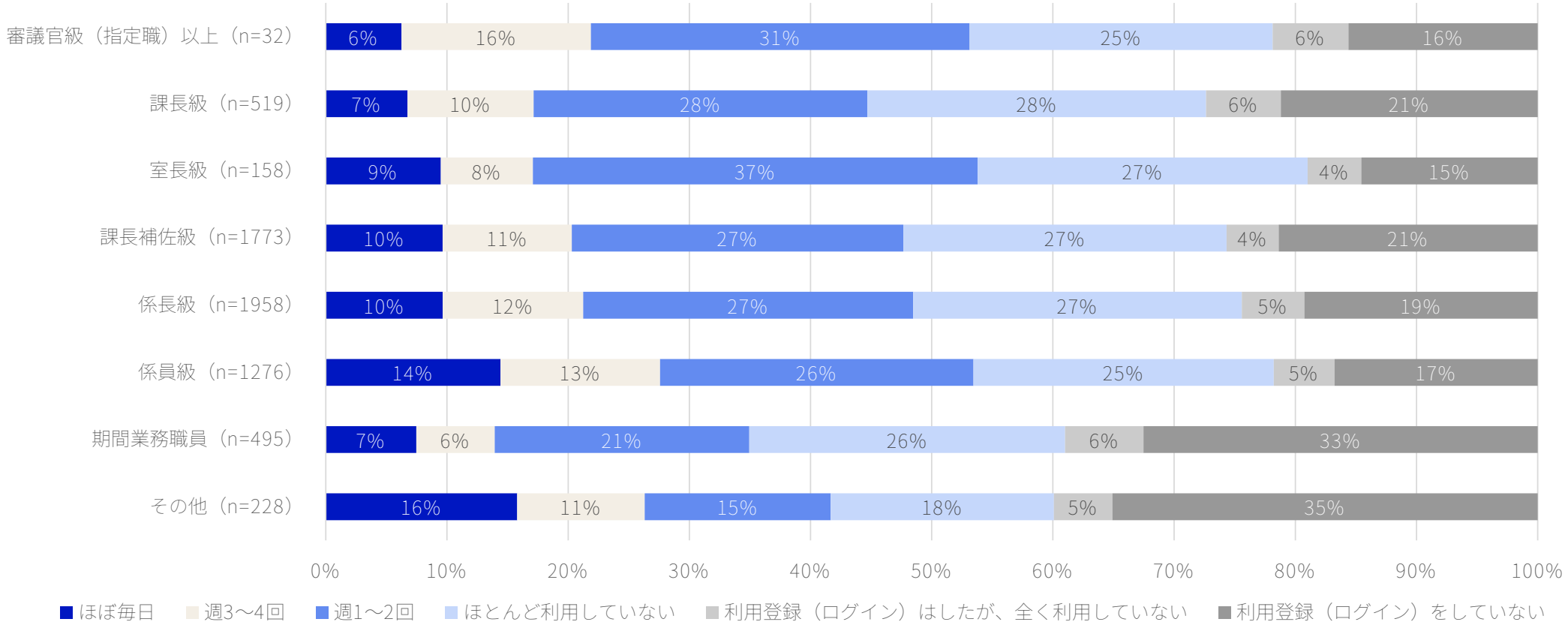




© Digital Agency, Government of Japan

源内の利用頻度 ×役職

係員級～審議官級（指定職）以上の職員は、50%前後が源内を週１回以上利用している。

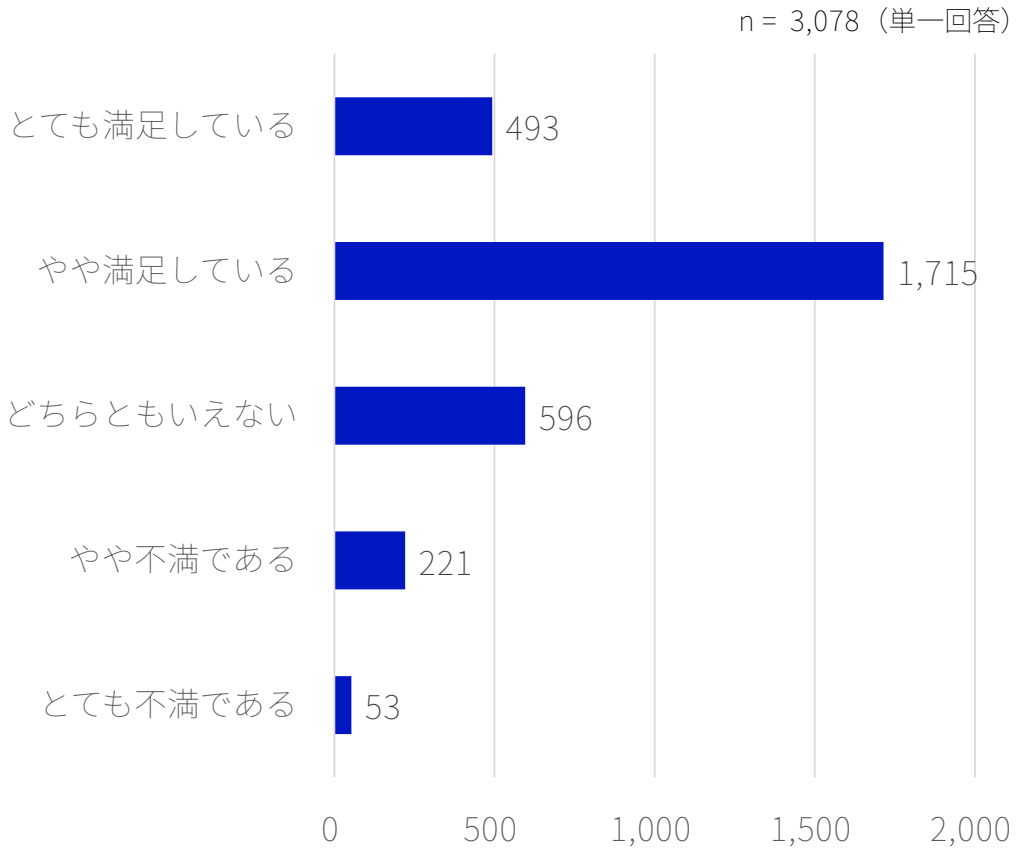


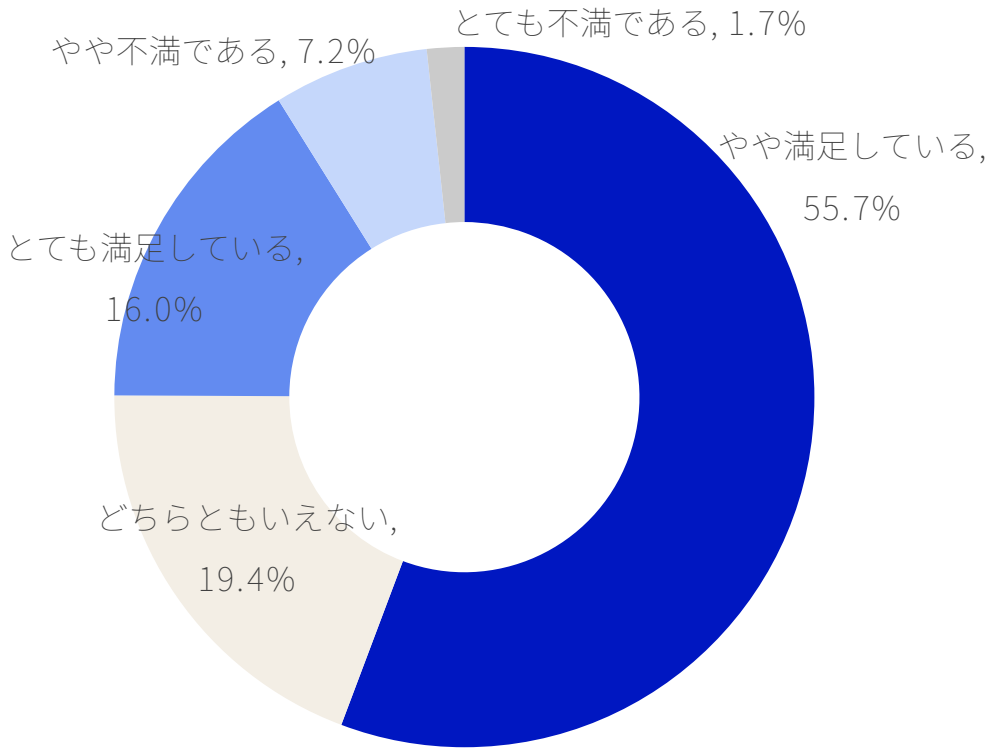
*回答割合が３%以下のものはデータラベルを割愛

© Digital Agency, Government of Japan

源内への満足度

源内への満足度について、「満足」（「とても満足」及び「やや満足」）が71.7%、「どちらともいえない」が19.4%、「不満」（「やや不満」及び「とても不満」）が8.9%。

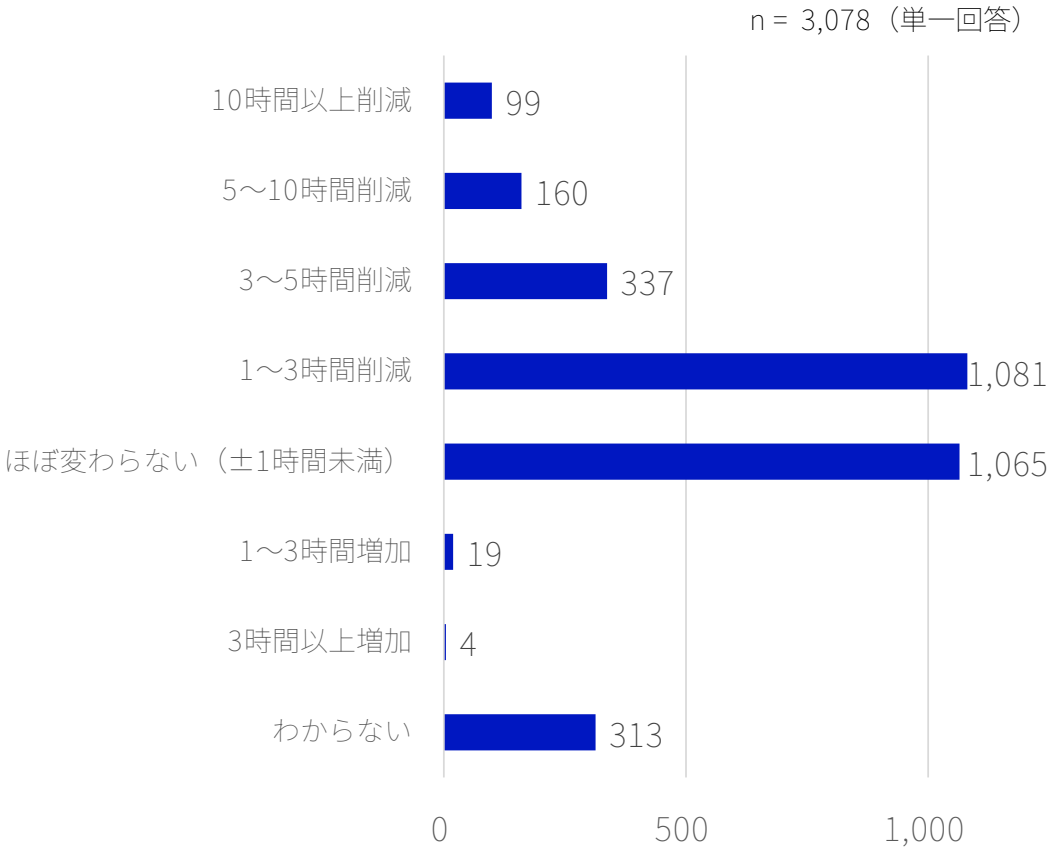


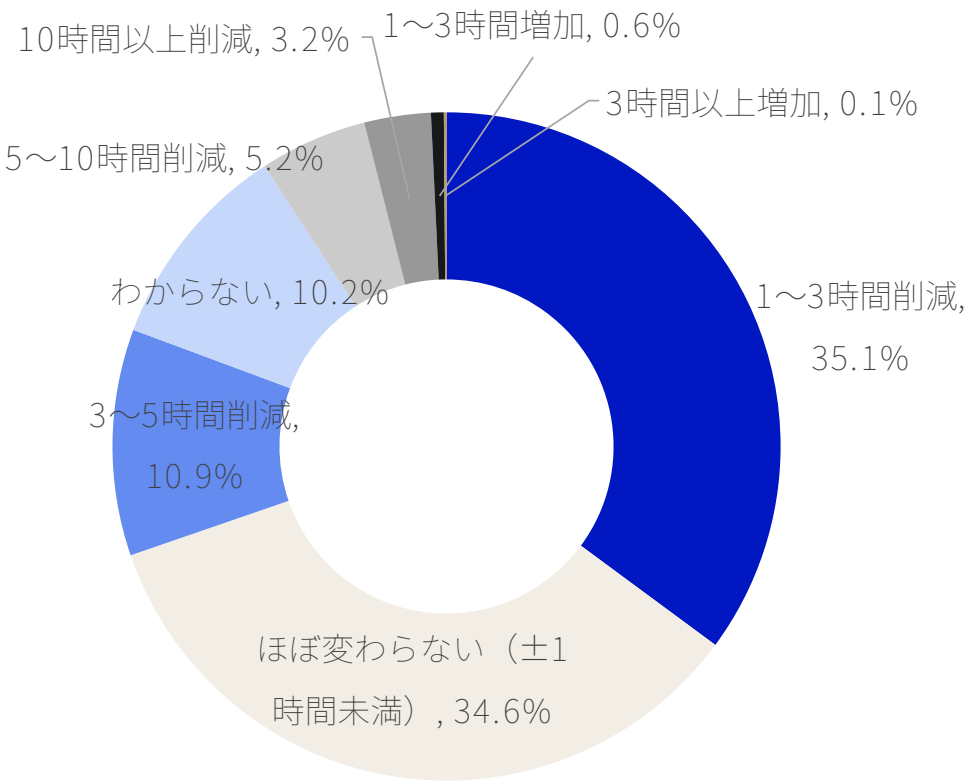


© Digital Agency, Government of Japan

源内による業務時間の変化①（業務時間数の削減効果）

源内を導入した業務における、１週間当たりの業務時間の変化について、「１時間以上の削減」が54.4%、「ほぼ変わらない（±１時間未満）」が34.6%、「１時間以上の増加」が0.7%。

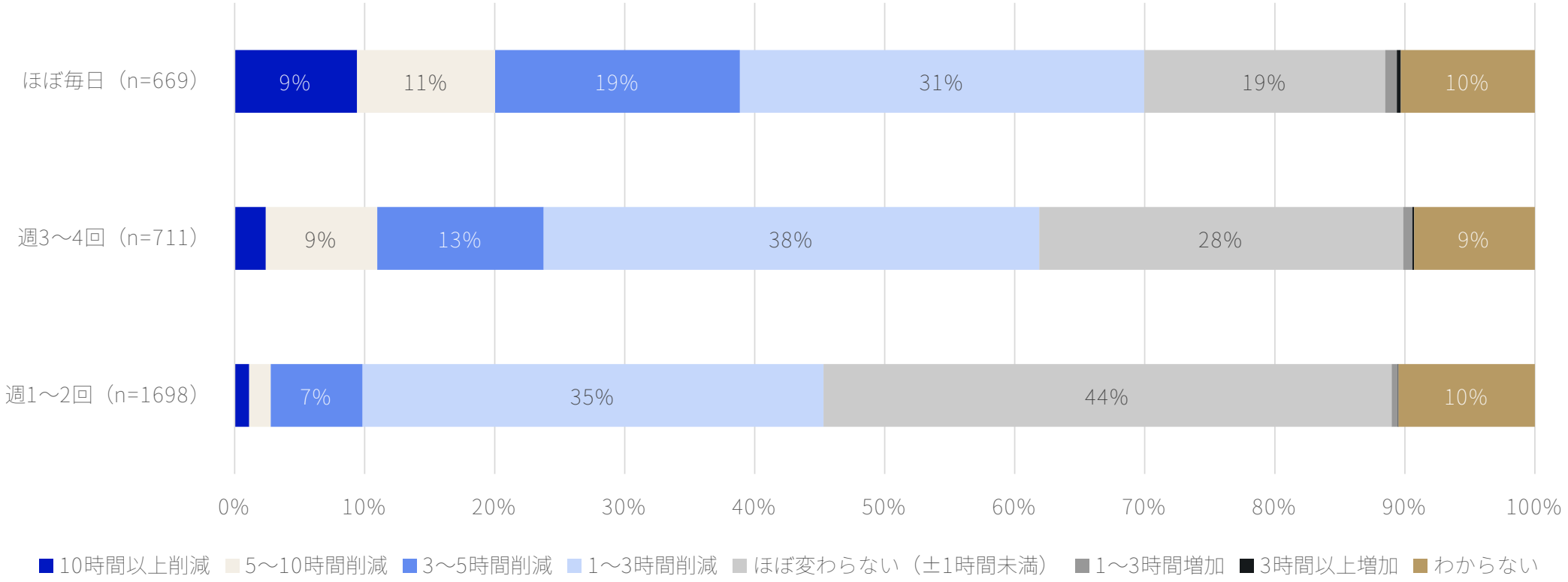




© Digital Agency, Government of Japan

業務時間数の削減効果×利用頻度

源内を導入した業務における、１週間当たりの業務時間の変化について、利用頻度が高い職員ほど、１時間以上の業務時間削減を実感している割合が高い（「ほぼ毎日」70%、「週３～４回」62%、「週１～２回」45%）。

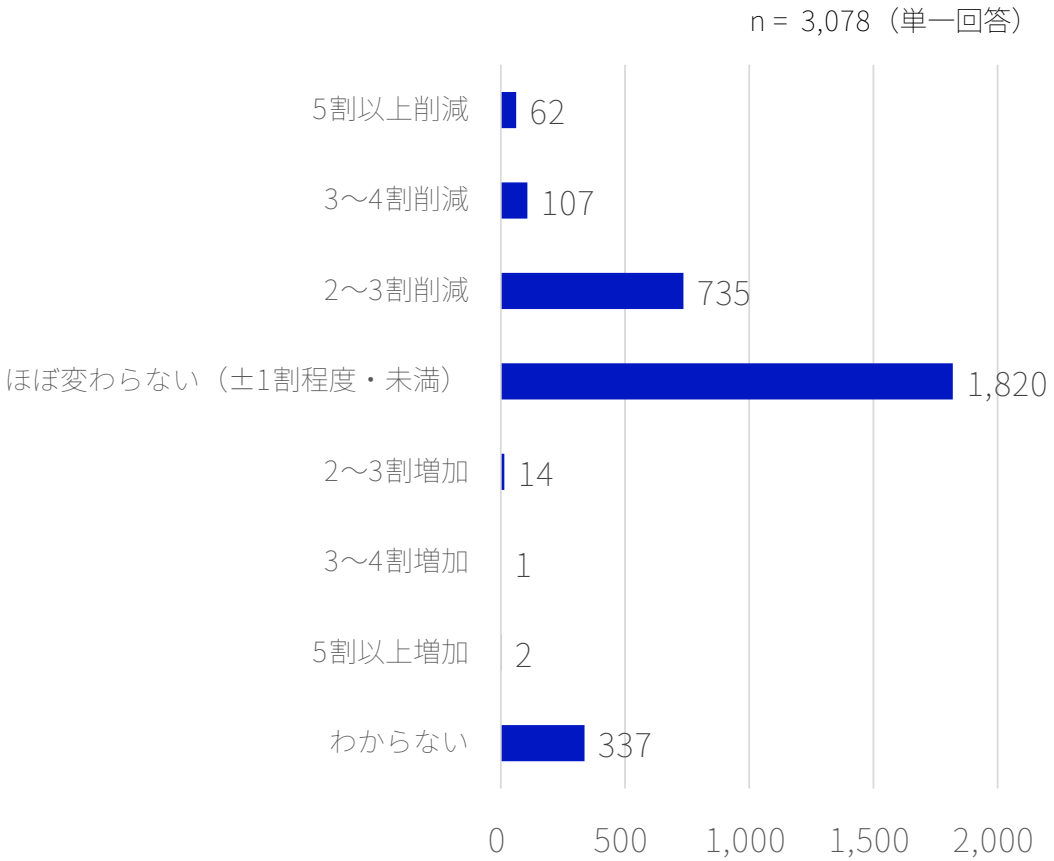


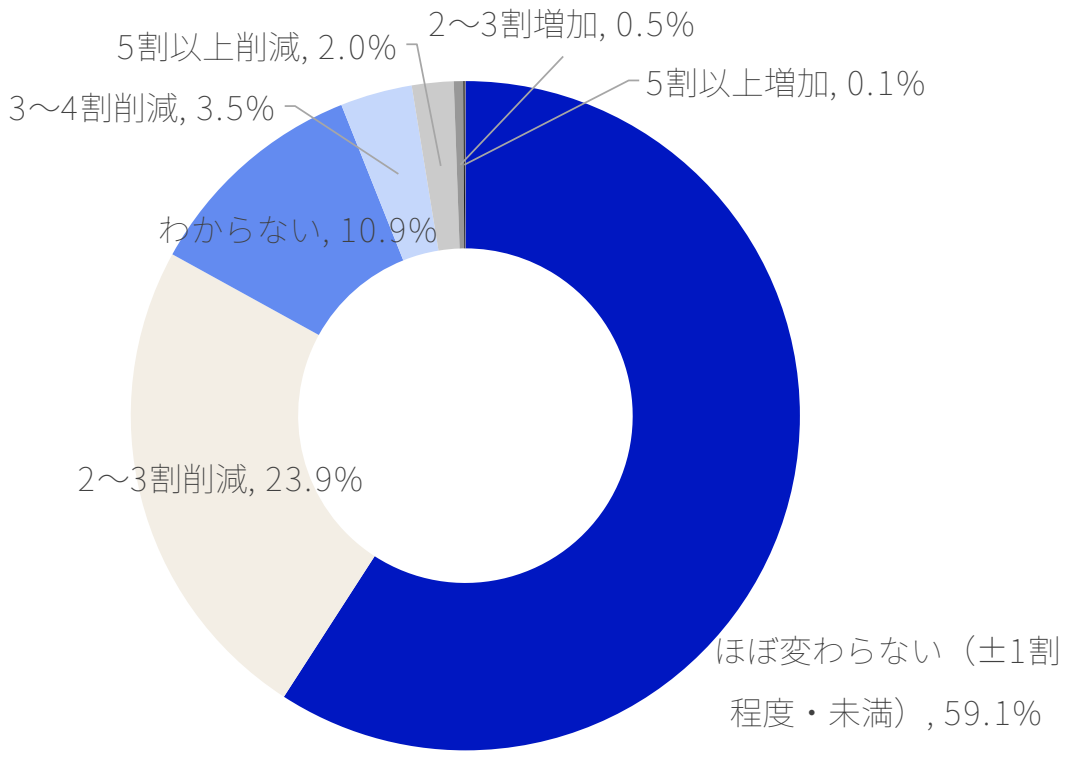
*回答割合が３%以下のものはデータラベルを割愛

© Digital Agency, Government of Japan

源内による業務時間の変化②（業務時間の割合の変化）

源内を導入した業務における、１週間当たりの業務時間の割合の変化について、「２割以上の削減」が29.4%、「ほぼ変わらない（±１割未満）」が59.1%、「２割以上の増加」が0.6%。

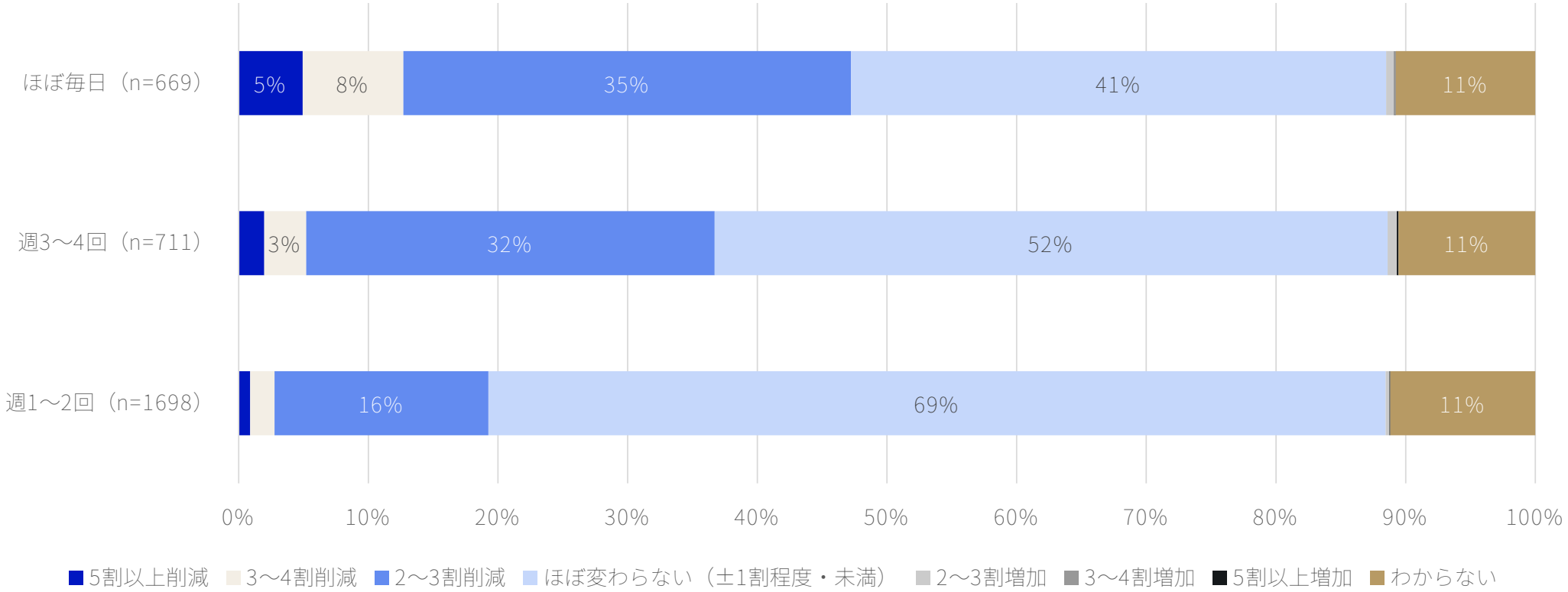




© Digital Agency, Government of Japan

業務時間の割合の変化×利用頻度

源内を導入した業務における、１週間当たりの業務時間の変化について、利用頻度が高い職員ほど、２割以上の業務時間の割合の削減を実感している割合が高い（「ほぼ毎日」48%、「週３～４回」37%、「週１～２回」 19%）。



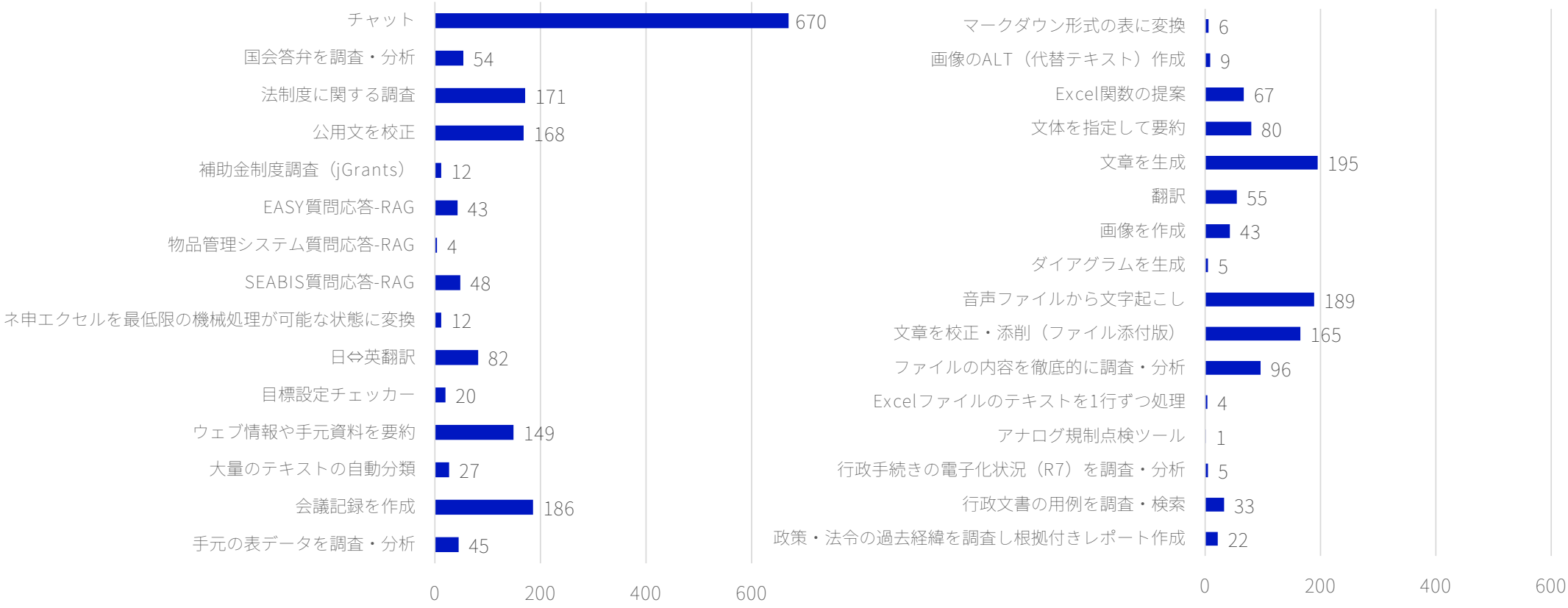
*回答割合が３%以下のものはデータラベルを割愛

© Digital Agency, Government of Japan

業務時間の削減に寄与したAIアプリ

業務時間の削減に寄与したAIアプリとして最も多いのは「チャット」。その他、「文章を作成」、「音声ファイルから文字起こし」、「会議記録を作成」、「法制度に関する調査」、「公用文を校正」、「文章を校正・添削（ファイル添付版）」等の回答が多い。

n = 904（複数回答）



© Digital Agency, Government of Japan

業務時間を削減した具体的なエピソードや、削減された時間の活用方法①（抜粋）

資料・文書の要約／読解

- 資料のたたき台作成や文章の校正・整理に源内を活用したことで、資料作成にかかる時間を短縮できました。削減した時間は、関係者との調整や内容の精査といった、より判断を要する業務に充てることができました。 複数の関係者間でのメール・チャット、その他の連絡文の文案作成に活用し、文章を一から作成する手間が省けました。その分、案件の方向性の検討や関係機関との折衝に時間を使うことができました。
- チャット機能：政府決定文書を含む行政文書において長文の場合、まず当該文書の論点整理をするために役立っている。また、過去の政府決定文書と、改定後の同文書の差異がどこにあるのか、レポートを返してもらえるので頭の整理に非常に役立つとともに時間の短縮につながっている。加えて、新規に作成するドキュメント内容が関係する既存のドキュメント類と整合されているかについても表形式でまとめてくれたりと非常に高い精度で出力してくれるため、新規行政文書の作成に役に立っている。 国会答弁検索AI：自然言語でニュアンス等を踏まえた検索をAIが実行するため、知りたい、探したい答弁実績を的中率高く返してくれるため、国会図書館等が運用するweb版の「国会議事録検索」より役に立つ。

議事録作成・文字起こし

- 数日要していた文字起こし作業を3時間45分に削減。
- 音声データの文字起こしや、幹部レクの想定問答作成のためAIに役割を与えてディスカッションさせることで、業務時間を削減した。削減した時間は別の案件対応に活用した。
- 参加したセミナーの音声（英語）の文字起こしに利用したところ、自分でタイプするより、はるかに短い時間で作業することができた。内容もかなり正確で、確認したがあまり修正する部分はなかった。当該文字起こしを基に資料作成を行う時間が大幅に短縮できたことで、資料のブラッシュアップにかける時間が大きく確保できた。
- 海外の方との打合せや会談の議事録について、文字起こしアプリを使用し、それで生成されたものを元に議事録を作成してもらうことにより時間が短縮された。削減された時間は別の案件や自らの知識を蓄える時間に当てられた。
- 「音声ファイルから文字起こし→会議記録を作成」が非常に役立っています。会議記録にを作成するのにかかる時間が体感的に50%以上削減できており、会議中に必死にメモ取りをする必要がなくなるため、会議の内容やディスカッションに参加するリソースが生まれて自己成長にもつながっています。

文章作成・校正・レビュー

- 申請された研究計画に対する有識者からのコメントをとりまとめ、所見案として文章にする作業において、大活躍しました。 ①最初に提出されたコメントファイルが、データ集計用になっていなかったため（よくある、会議資料用としては整っているものの、データ集計には向いていない形のエクセルファイル）、源内を利用してエクセルのマクロを組み、コメントファイルの中身をデータ集計用にコンバートしました。厳密には源内の成果ではないかもしれませんが、私はそもそもマクロを十分に記載できる人材ではないため、自然言語で達したい目的のマクロを作成できたことは大きな感動でした。これにより、膨大なコピペ作業から解放されました。 ②また、そのコンバートしたファイルを元に、源内でコメントの内容･重要度の基づいた分類作業を行いました。最後はもちろん人の目で確認をしましたが、ルールに基づいて、コメントにフラグ付けをしたことで、コメント内容に大まかな評価・重みづけができ、コメント全てを一から分類する作業はなくなり、作業時間を大きく削減できました。1週間以上作業時間が短くなったように感じています。 別の案件対応や、課や係の業務改善を考えられる余裕が生まれました。今や源内は業務になくてはならない存在になっています。

データ集計・分析、Excel処理

- 相談情報のうち、自由記述項目についてはこれまで職員の目検によって精査していたところ、源内を活用することで、情報の選別・優先順位付けが可能となり、業務の効率化につながった。
- （データ抽出作業に利用した例）所属人数が多いため、超過勤務状況を一元化し、管理職が把握できるようにする必要があった。そのため、個々人の勤怠アプリデータの集計を実施。勤怠アプリからはデータエクスポートができない仕様のため、個々人の集計対象画面の画像を取得し、その画像から各データをMarkdown形式で読み取ってもらい集計表を作成。（源内が無いと不可能な業務でした。アプリ画面からデータのコピー＆ペーストもできなかったので、源内が無かったら、、、日次・月次のデータ50名分を目で見て手入力するしかなかった・・・） 削減できた時間で、同じライン内の業務改善提案を複数行うことができた。
- 全国から集まった調書のデータの整理について、チャットでExcel関数の提案を受けながらデータを整理した。対話形式で提案されるうえ、関数を選定した理由も表示されるため、関数がブラックボックスにならず、理解を深められた

© Digital Agency, Government of Japan

業務時間を削減した具体的なエピソードや、削減された時間の活用方法②（抜粋）

翻訳・語学

- 英語から日本語訳へ翻訳してもらうことで、自分で翻訳する時間が０（訳が正しいかは都度検証はしているが）となり、削減された時間を、政策の検討業務に充てた。
- 紙の資料しかない英語資料について、スキャンした未OCRのPDFファイルかつ複雑な段落構成であっても、ページ内の情報を正確に読み取ったうえで、読みやすく翻訳することができた。 資料が相当量であったことから、翻訳に掛かる時間を大幅に削減できたことと、単純な機械翻訳よりも読みやすい日本語に整形されていたことから、資料内容について関係者の理解を深めることができた。

コード生成・システム開発

- そもそもプログラム作成のスキルが全くない自分が、源内を通じてプログラムを生成し業務自動化のソフトを作成することができた。 そしてそのソフトを通じて、それまで手動で行っていた作業を自動化させることができた。 業務の自動化そのものは、それほど大きな業務時間の削減にはなっていないが、コーディングスキルのない自分が自力でこのソフトを作ろうとすれば、プログラミング言語の習得から始めなければならず、それは言い換えれば私の業務・学習時間をゼロに削減したと言っても過言ではない。 生成AIの威力をまざまざと実感した。

上司・部下相互の負担軽減

- 一般の方に配布する資料について、誤字脱字を修正してもらった。上司に見せる際には、源内で文書校正は完了したので、資料の大意について確認していただくよう依頼することで、上司側も時間を削減することができた。 また、資料間での矛盾が無いかを確認してもらった。
- 自身業務遂行上必要な「ちょっとした」技術的な疑問を解決するために、（対面、メール、チャット等で）部下職員の時間を使わせて情報提供してもらわなくとも済むケースが多くなるようになった。
- 公用文の公正アプリを使用したことで、上司に修文を受ける頻度が減ったと思われる。

ワーク・ライフ・バランス／やりがい

- 業務時間が削減されたおかげで、時間的制約がある、子育て中の私でも、家庭を犠牲にせずに働くことができている。
- 削減された時間を有効活用し、別の案件対応に時間を割くことができ、結果的にワークライフバランスの向上につながった。
- 依頼もののメール文について、ざっくり口語で記載した案を源内に修正してもらい、それを微調整してメールを送るのに活用した。このような単純作業を源内を用いて省力化でき、もっと重要なことに充てる時間を増やすことができ、勤務時間で感じるやりがいが向上した。

その他の全般的な使用方法

- アイデア出しのためのディスカッション、資料まとめ、校正、修正漏れの確認、英訳、プログラミング等ありとあらゆる業務で使用している。
- 業務時間削減ではないが、以前は業務委託を行い半年から1年かけて策定していたガイドライン作成が、業者を使わず内製で３ヶ月程度で完成させることができている。 ただ、これまで外部にアウトソーシングしていたものを、自分達でできるようになったものであり、結果的に自身の業務量が増えており、自身の業務時間が削減とはなっていない。

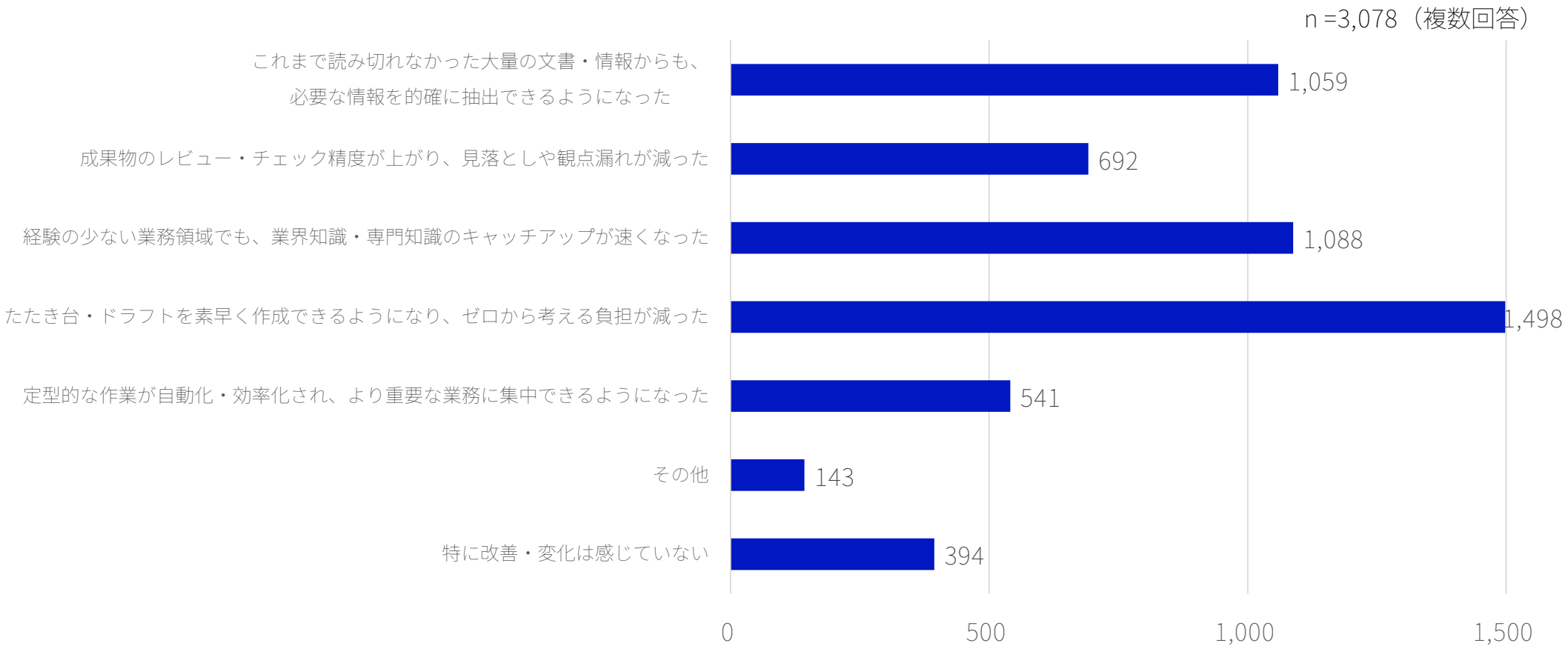
その他の全般的な業務の質向上

- AIの活用により劇的に業務時間が変化したわけではないが、定型業務等の時間を削減でき、その分を深い検討に充てられており、業務の質が向上していると感じる。
- 仕事そのものよりも仕事の手順を調べる方が時間がかかる。源内はまさに仕事の手順を理解するための助けになる。
- 同じチャットを目的に分けて使い続けることで過去の情報も加味してくれるおかげで、最初からプロンプトを作成する必要が無くなり、使えば使うほど精度の良い回答ができる。それによって文書作成スピードが格段に上がった。

© Digital Agency, Government of Japan

源内利用による業務改善の場面

源内を利用することで業務が改善した場面として、最も多いのは「たたき台の迅速な作成によるゼロベースでの検討負担の軽減」。その他、「キャッチアップの迅速化」「大量の文書・情報からの必要な情報の的確な抽出」などが多い。



© Digital Agency, Government of Japan

特に効果の大きかった業務改善のユースケース①（抜粋）

文章作成・校正・レビュー

- 特に効果が大きかったのは、説明資料、FAQ、報告書等のたたき台を短時間で作成できるようになったことです。 従来は、伝える内容や構成、表現をゼロから考える必要がありましたが、生成AIに目的や前提条件、盛り込みたい要素を入力することで、短時間で一定の形まで整ったドラフトを作成できるようになりました。 その結果、文章を「作る」こと自体にかける時間が減り、内容の正確性の確認や表現の調整、より良い構成の検討など、本来職員が注力すべき部分に時間を充てられるようになりました。
- たたき台・ドラフトを素早く作成できることが、特に効果的でした。これまで「どこから書き始めるか」「どのような構成にするか」といった点で悩む時間が少なくありませんでしたが、源内を活用することでまず叩き台を得られるため、そこから内容を精査・修正するという形で作業を進められるようになりました。結果として、資料作成全体のスピードが上がり、より重要な業務に集中できる時間が増えたと感じています。
- 障害報告を書く時に、不足している観点や中立的な視点であるかを検証してもらうことで障害報告書のクオリティが上がりました

資料・文書の要約／読解

- 100件以上のパブコメの分析、膨大な公用文の単純なミスの洗い出し
- 大量の文書から必要な情報を抜き出すことについては、特に源内活用の効果を感じた。
- 異動後、過去の大量の情報を把握する際に源内による要約が役に立った。
- 取り組んだことのない事務の要綱を読んでも昨年版と今年版の違いがよくつかめなかったところ、源内に文書を比較してもらうことで変更点が明示的になり、改正のポイントがつかみやすくなりました。
- 研修資料などを源内に読み込ませ解説をしてもらっています。
- 人間だけでは膨大な資料から抽出する場合に、どうしても記憶に強く残っている範囲などに偏ってしまうが、AIのおかげで見落としていた内容を思い出すこともできて助かっています。
- 省庁特有の遠回しな言い方が理解しづらく、担当によって受け取り方が異なり、指示が変わってしまうのを統一し、情報を共有することができた。
- 関連する大量の文献を一通り読むことは、作業量だけでなく、眼への負担が大きいこともあり、要約や注目すべき文献等の情報が分かることで、作業の効率化に役立った。

法令業務・国会対応

- 法令検索が便利になったように思える。解釈論など一定の知識をもって，成否検討する必要はあるが、機械的な結果を短時間で得られることで、幅が広がった。
- 法令解釈において、基本的な情報を与えてくれるため、最終的な判断といった重要な側面のみを実施するだけでよくなり、重要な部分により時間を割けるようになった。
- 「法制度に関する調査」「政策・法令の過去経緯を調査し根拠付きレポート作成」「ファイルの内容を徹底的に調査・分析」アプリをよく利用します。4月に入庁したものにとって、法制度を参照してくれるのはありがたいです。
- 源内のAIアプリの使用方法を初級研修で教わりました。国会答弁の抽出や法例検索について、特に効果ありと感じました。以下のような質問をするときれいに整理されたアウトプットを得られました。 【国会答弁の使用例】 ・衆議院、参議院別に、参政党のコロナワクチンに関する質問主意書と回答をリンク付で出力してください。 【法令検索】 ・委託先としてIPAが実施する監査に係る法令と、そのことについて記載されている部分、リンクを一覧にして、考慮点とともに御説明ください。

翻訳・語学

- 英文で応募された授賞審査作業において、翻訳・要約・評価文章案の作成を短時間で行うことができ大変助かりました。 ※Q6・7で時間短縮につながらなかったと回答いたしましたが、これまで対応できなかった業務を源内AIを使うことで対応可能になり、新たな業務に取り組むことができたためです（同じ時間内により多くの業務をこなすことができるようになりました）。
- 大量の英文会議文書について、添付ファイルから情報を読み取って、入力した考慮すべき利害関係に応じて、対応をAI源内が作文してくれた。これにより、文章の確認時間を節約できた。AI源内は、他のAIよりも、大量の添付した文書について機能制限なくあきらめずに最後まで処理して答えを出してくれるために素晴らしい。
- 英文を翻訳する際に、その国際会議で使用される特有の言い回しや専門用語を正確に翻訳してくれたため、理解が進みやすかった。
- 英文レター作成時、先方の役職、地位に関するSalutationを調べる時間が非常に削減された。文章の推敲も短時間でできるようになった。

© Digital Agency, Government of Japan

特に効果の大きかった業務改善のユースケース②（抜粋）

議事録作成・文字起こし

- 誰がやってもよいが時間のかかる文字起こしや議事録作成といった作業にほぼ時間を使わなくてすむようになった。議事録等の要約をお願いすることで、なっがい文章を簡単に読み、関係がある場合のみしっかり読むといった取捨選択ができるようになった。
- 打合せ議事録につき、文字起こしとチャット（文字起こし結果と会議資料をインプットとして入力）を組み合わせることで、ほぼ自動化できたことが革命的でした。
- 会議文字起こしからのAI要約、議事録作成はとても便利ですし、NextActionの対応漏れを防ぐことに貢献しています。

データ集計・分析

- 集計作業のようなものは、源内を活用することで効率的になったと認識している。
- アンケートの結果の生データを渡して分析してもらったが、客観的で的確な分析だった。
- 消費者相談の分析に大いに役立った。分析レポートがとても視認性良く、初期判断に活用できる。ただし、信用性（ハルシネーション）についてはまだ確認中である。

業務のキャッチアップ

- これまでに修めていない領域（機械学習）を、源内の利用を通して学ぶことができた。
- Excelの処理を中心に使わせていただいています。関数に関わるものを学んできていなかったので、源内を使いながら少しずつ学ぶ機会もいただけてます。
- 経験の少ない業務領域でも、業界知識・専門知識のキャッチアップが速くなったと思います。臆せずいろんな領域に挑戦できるようになった。
- 業務における不明点を源内に説明させることで理解が深まった。
- EASYやSEABIS、GIMA、勤務時間法等について、詳しい人に質問する感覚でわからないことを聞き、解決することができた（GIMAはマニュアルを読み込ませた）。特にGIMAについては周りに詳しい人がいないため、マニュアルを読み込む必要があったが、その時間・労力が短縮できた。

上司・部下相互の負担軽減

- 上司に説明するための規則類の要点の整理の時間が大幅に短縮した。
- 曖昧な指示に対して、どうすればいいのかという状態になるが、源内によりとっかかりができる。
- AIでドラフトを作成することで、部下の作業を減らして自身の対応で完結できるようになりました。
- 専門的な分野に係る情報を大雑把に把握する際に、自分自身で当てのない検索活動をしたり、部下職員に質問しなくとも済むケースが多くなった。

その他の全般的な使用方法

- 全て。
- 情報の収集、整理については、従前と比較して、格段に効率的かつ詳細になったと思います。また、資料作成の際には、まず生成AIにドラフトを作ってもらい、それを修正するような形で進めており、格段に処理スピードはあがったと思います。さらに、誤字、脱字のチェック等、人力ではどうしても漏れが出てくる作業にも効果があると思います。
- 人間と比べて明確にAIに比較優位があると言えるであろう分野での使用においては非常に助けられた。
- これまでBCM専門家のノウハウで企画・設計・実施・評価していた「BCM演習」が、源内で再現できるまでになった。専門家が介入せずBCM演習を庁内に浸透・定着化させ、弊庁のレジリエンス強化につなげたい。

その他の全般的な業務の質向上

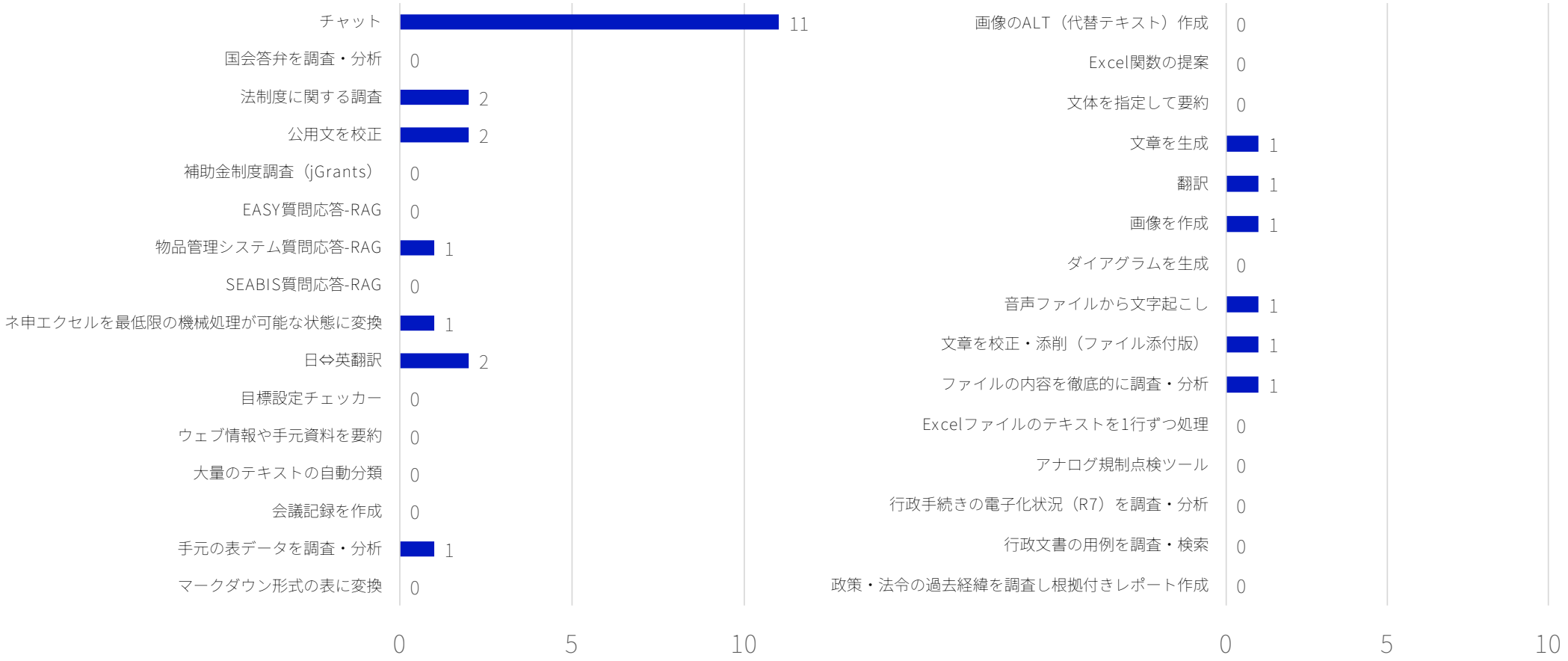
- AIを壁打ち相手として活用することで、様々な観点・角度から物ごとを捉えることができ、業務の質の向上に資する活用が出来ていると感じます。
- 今までに行っていないことを、源内を使って新たに始めた（国民の声の分析）ので、直接的な業務時間の削減にはつながっていませんが、有意義に使用しています。
- 多くの学術論文の情報をスクリーニングすることが可能となったため、業務上必要な知見の収集速度が飛躍的に上昇した。これまで手が回らなかったことに手が付けられるようになったことから、業務時間の短縮にはつながらないが、プラスアルファを増やすことが出来るため満足している。
- 誰にきいてよいかわからないような相談に対応してもらえて気持ちが落ち着いた。

© Digital Agency, Government of Japan

業務時間の増加につながったAIアプリ

業務時間の増加につながったAIアプリとして最も多いのは「チャット」。

n = 17（複数回答）



© Digital Agency, Government of Japan

業務時間が増加した具体的なエピソード（抜粋）

プロンプト作成の手間

- 定型業務ではあるが、まずプロンプトを複数考える必要があり、その作成に時間がかかる。

確認の手間

- 正確性を期するため、表現等の修正が必要。また、正誤等の確認をしてもらっても、そちらも参考にしつつ、自分の目でも確認が必要。
- AIを使えない、使おうとしない職員の業務が、AIを使える職員に回されて仕事が増える。

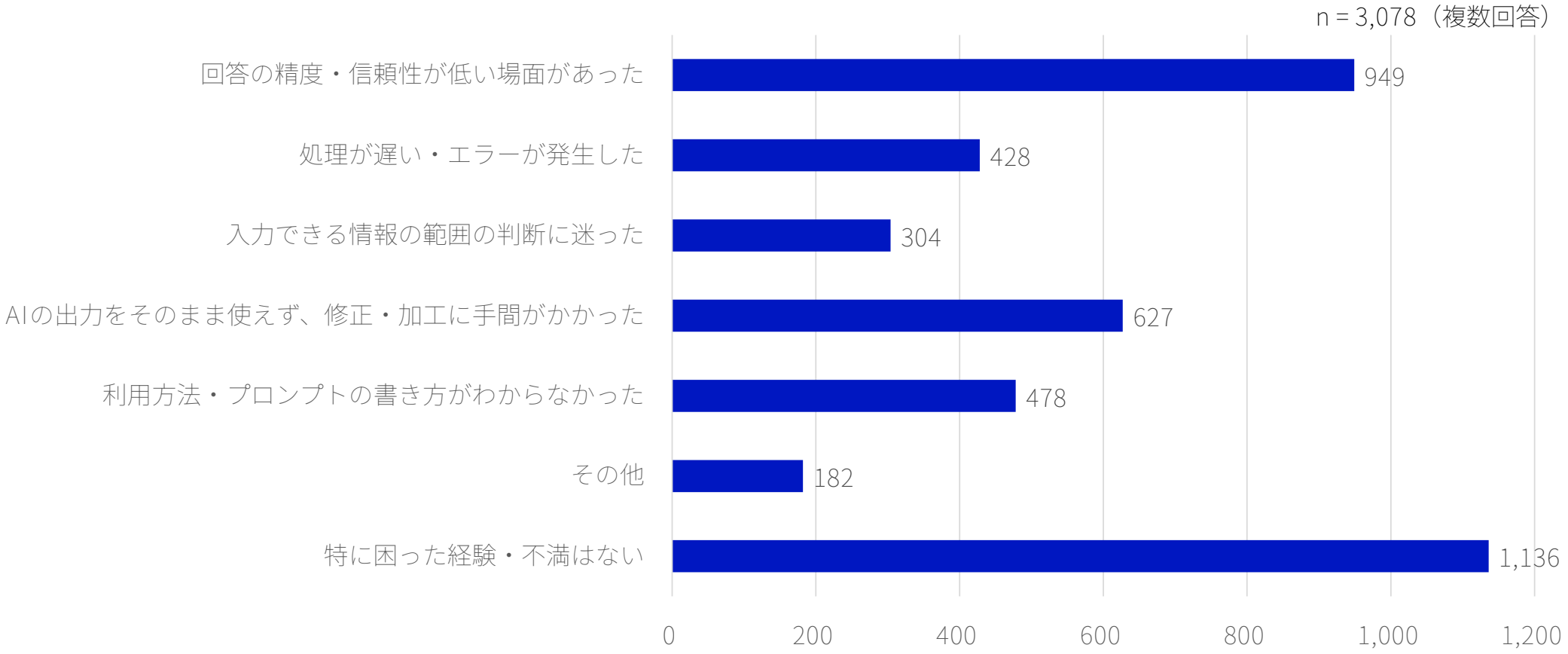
源内における機能の制約

- AIが活用できるようになり、これまでの業務レベルからさらに上の取り組みを目指せるようになり業務時間が増加した。また、源内に限らず画像生成に弱く、法制度等の説明イラスト生成には細かい指示を繰り返す必要があり成果物のレベルは上がるが時間も要した。
- 例えばマイクロソフトのワードやエクセルの修正や作成などができない事や、出力が不可能なことがわかった（当該チャットを通じでできないとわかったのでその時間分という意味）

© Digital Agency, Government of Japan

源内の利用による業務の質の低下場面

源内を利用することで業務の質に対する懸念が生じた場面として、最多の「特に困った経験・不満はない」を除いて多いのは、「回答の精度・信頼性が低い場面がある」、「AIの出力をそのまま使えず、修正・加工に手間がかかった」。



© Digital Agency, Government of Japan

源内利用時に特に困ったこと①（抜粋）

回答の精度・ハルシネーション

- 同じ問にもかかわらず、回答が異なり、２回目以降の回答のほうが精緻であるため手間がかかる。
- 公用文の書き方に即した表記のチェックには有用だった。 他方で、文章を読んで論理的にそのつながりの適否を判断させる場面では、AIには背景の知識が無いためか、的確な回答が得られなかった。
- ハルシネーションリスクをどこまで厳格につぶすべきかという点が常に悩ましい。 回答の信頼性を疑い全て裏どりをしていくと、結局時間がかかってしまうという点も悩みどころであるし、自分で裏どりができるようなものであればそもそも源内を利用せずとも問題解決できることが多いため、この点は実践的な解決方法が知りたいところ。

ファイルの出入力の制約

- AIが生成した文章や表をそのまま業務で活用したい場面が多いのですが、Word・Excel・PowerPoint形式での出力ができないため、手動でコピー＆ペーストする手間が生じています。せっかく効率化できた時間が、これらの作業で一部相殺されてしまうのが惜しいと感じています。 また、Word・Excel・PowerPoint形式での出力ができないことから、ポンチ絵等の図表を含む資料を源内上で完結して作成することができず、効率化の効果が限定的となっています。
- 取り扱うファイルのサイズが大きいため、資料や文書を添付できないことが多い。 Sharepointと連携していないので、格納されたファイル等へのアクセスがなく、毎回必要情報をすべてアップロードしないと作業ができないこと。

処理速度への不安

- 本来はどんどん利用したいが、入力できる範囲の判断に迷うので、その確認に負担がかかるため、利用については一般論に留まるところが、まだ活用出来ていない余地として認識しております。
- どこまで詳細な情報を入力してよいか判断に困った。ふわっとした内容だと回答も曖昧になるし、かといって機密情報に該当するかの判断がつかないものもあって、結局源内を使うことを諦めたこともあった
- 入力する前に、範囲外の情報が入っていないか確認し、入っていれば加工しなければならないのが、仕方のないことだが、面倒に感じる。

アプリが複雑

- AIアプリが多すぎて、選択するのが面倒
- いざ使おうとするときに「あのアプリは・・・」と探すのが煩わしい（時間のロスに感じる）
- それぞれのアプリを使った方がよいのか、チャットに訪ねて繰り返し会話したほうがよいのかわからないことがあった。
- どのアプリを使用するのが最適なのか分からない。回答から別アプリに誘導してくれることがあるが、別アプリに移動して再入力しするのは2度手間だと感じる
- 使い勝手の良いアプリがあまりない

参照データの古さ・狭さ

- 学習データが最新ではなく、おおむね2024年頃からカットオフされている。 現代社会は毎日膨大な情報が追加され、技術発展スピードも速いことを考えれば、1-2年前の情報しか学習されていないのは致命的。 学習データを毎日更新する必要はないものの、もう少し新しいデータを源内に知っていてほしい。
- チャットで質問した内容の回答が古い情報を参照するため、現時点の情報との整合を確認する必要がある。

効果的なプロンプトが不明

- 最初、プロンプトの書き方が分からず、なかなか思うような成果物が提供されず、かえって時間がかかったと感じたことがある。
- 不慣れな部分もありますが、詳細なプロンプトの入力に苦戦することが多く、かなりしっかり入力しなければならないので文章に悩むことが多かったです。
- プロンプトの書き方がわからなかったというよりは、どのようなプロントが適切かがまだ自分の中で確立できていない

© Digital Agency, Government of Japan

源内利用時に特に困ったこと②（抜粋）

処理速度への不安

- 質問を送ってから半日くらい？回答までに時間がかかる時があり、（処理速度は数秒と書かれていますが、実際に回答を見られるまでには数時間かかっています。）早く回答をできるようにしてほしいのは大前提として、回答出力に時間がかかるのであれば、回答出力時点でメールやチャットなどが来るようにしてほしい。←回答が来ているかどうか確認しに行くのも面倒なため。
- リソースの面で仕方ないところもあると思いますが、回答まで時間かかるところが急いでるときに気になります。特に国会答弁を検索するのに質問が集中しているのか夕方ありから混み始める感じがあります（答弁作成は急いでる時が多いので余計にそう感じるのかも）（あくまで体感で統計は無いです）

回答不可・エラー事案の発生

- プロンプトの問題かも知れませんが「WEB等からは判断できませんでした」といった回答を避ける場面が多かった。
- 正確性を意識してか、「ここでは答えられません」、とか、「次のアプリを参照してください（参照してもわからなかった）」、とか、奥歯に物が挟まったような回答に出会うこともしばしばあり、結局他の生成AIを使うことになることがある。
- 大量のデータの解析や要約をしてもらいたいのに、エラーが吐き出されて仕事が進まないことが多い

画像生成の精度が低い

- 画像生成の精度がとても低い。事前に、画像生成のためのプロンプトの作成を源内で行い、プロンプトの精度を高めた後に画像作成に臨んだが、人の指が6本あったり、あり得ない方向に腕が曲がっていたり、酷い間違いが連発する。会話形式のプロンプトで修正しようと思っても、一度間違った画像を生成すると、その間違った画像を元に上書きで修正されるため、どんどん誤った修正が重ねられ、非常に使い勝手が悪い。
- イメージ絵を作ってもらうと、その内容（数字など）に誤りがあったため、その絵の編集で修正プロンプトを入れたところ、イメージ絵自体が違う絵になったことから、自身で加工などをしたり、イメージ絵を見ながら自身が作成したことがあった。 絵の図が何かで使われていないか調べるのに時間を要した（しかも精度は高くない）

人間による確認の手間

- 生成AIにExcelマクロを組んでもらっており、一度作成してしまえば業務時間が短縮されるが、そのマクロを作成するのに時間がかかる。生成AIで一発で作成できるわけではなく、何度も試行錯誤が必要で、一時的に業務時間が増える。
- 報告等を出力する場合、同じ聞き方をしても報告の様式が違ったりするので、その点を修正しなければならないのは、大変に感じることもある。基本的にはAIだけで仕事は完結せず、必ず、人間でのチェックが必要。そういういみでは、AIに作成してもらった文書等の背景等は人間がしっかり理解しておかない。打ち合わせの議事メモなど、意図していない話が大きく書き出されたりする。そういう意味では仕事の質やスピードは上がったが、その分人間にもチェックを行う意味での負担が増しているように感じる。

利用者のリテラシー

- ネットの回答をまとめさせた場合、本当に正しいかは、元のリンクを確認する必要がある また、部下が出してきた源内の回答にハルシネーションが発生していることがあり、かえってその確認に手間取ったことがある
- 部下が時々AIの出力をうのみにする傾向があり、より慎重にチェックするように心がけています。
- 文章としては非常に整っているが細部の情報が誤り等があり、作成者に確認したところ源内から出力された資料をそのまま提出したとのことであった。AIの特性（間違っている場合があること、AIに読み込ませてはいけないデータがあること等）についても、十分に学習する必要があると感じる。
- インプットが貧弱な状況でAIに頼んでも、表面を取り繕っただけの意味の薄いアプトプットになるため、人がAIの使い方をきちんと理解して使う必要があると考える。
- AIの情報を鵜呑みにせずに原典に当たることとしているため、特に困ったことはありません。

その他

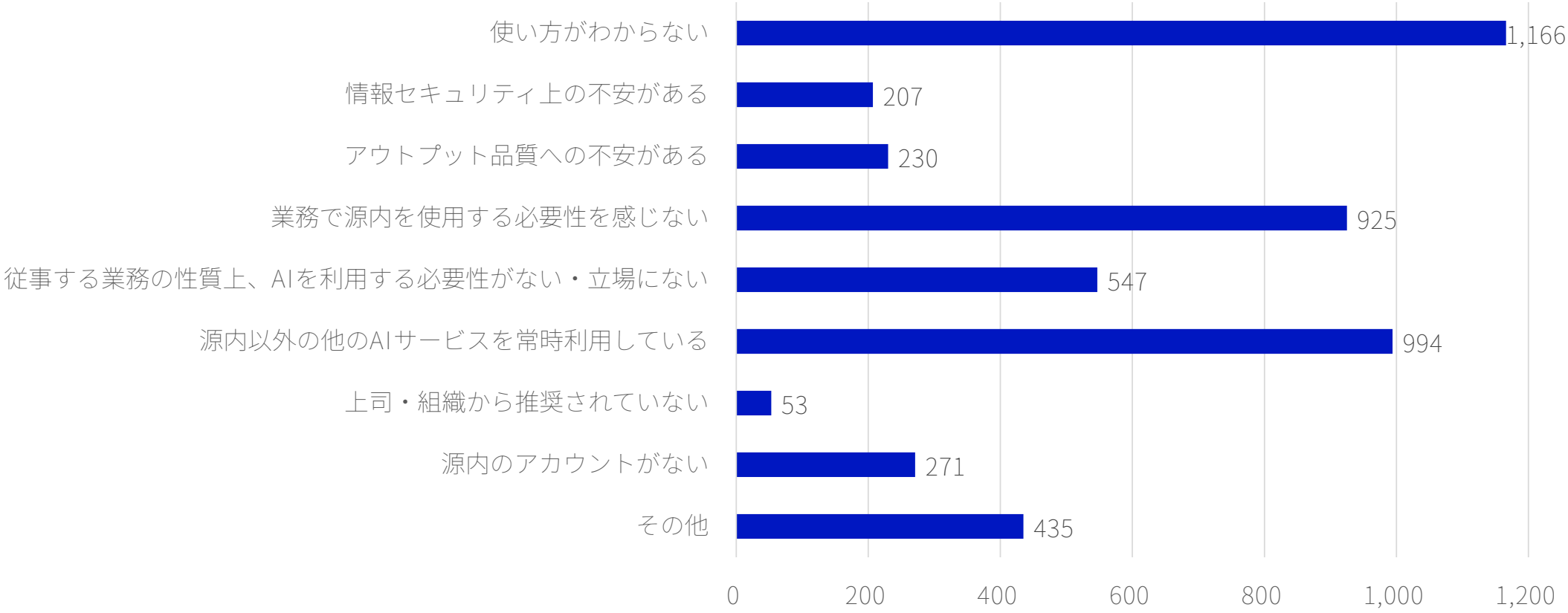
- 自分がまだ積極的に生成AIを活用できていないため、どのようなプロンプトを使用すれば効率的に生成AIを活用できるのかがいまいちよく分かっていない。源内利用者への入門編のような研修、手引や活用ブックのようなものがあれば、生成AIに不慣れな人でも、もっと活用したいと思うようになる気がする。
- コパイロットと源内の使い分けについて、具体的なケースで教えていただけるような資料があるととても参考になります。 あと、AIモデルをいつもどれを選択すると良いのか、判断に困ることが多いです。
- 会話の合計コストが気になる
- どのようにログインしたらよいかUIが分かりにくかった。機能が優れていることは利用していれば分かるので、（他のオープンデータ・ツールも含め）初めて触れるユーザーの利用動線がより分かりやすい方が望ましい。利用障壁をより低くするための工夫を望みたい。

© Digital Agency, Government of Japan

源内をほとんど・全く利用しない主な理由

源内をほとんど・全く利用しない主な理由として最も多いのは「使い方がわからない」。次いで、「源内以外の他のAIサービスを常時利用している」、「業務で源内を使用する必要性を感じない」が多い。

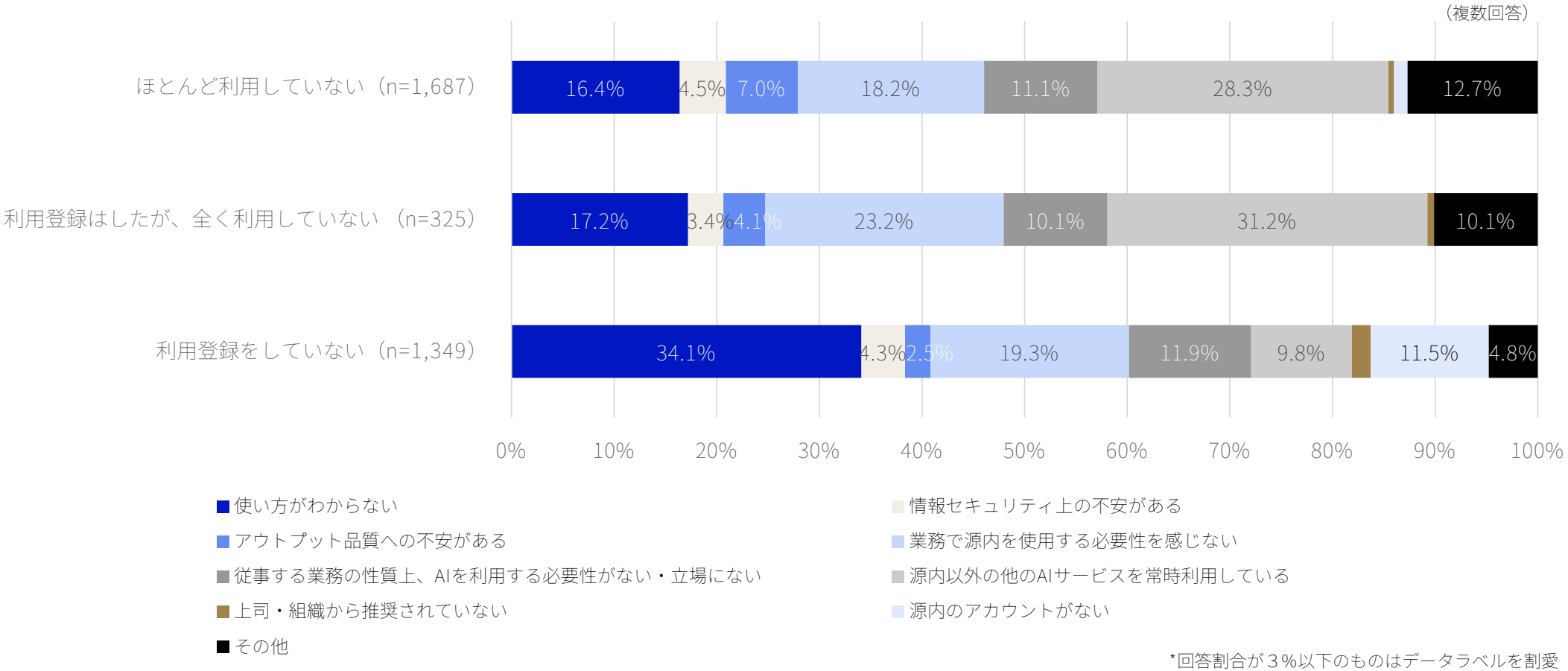
n = 3,361（複数回答）



© Digital Agency, Government of Japan

源内をほとんど・全く利用しない主な理由×利用頻度

「ほとんど利用していない」「利用登録はしたが、全く利用していない」理由として最も割合が高いのは「源内以外の他のAIサービスを常時利用している」。「利用登録をしていない」理由として最も割合が高いのは「使い方がわからない」。



*回答割合が３%以下のものはデータラベルを割愛

© Digital Agency, Government of Japan

源内をほとんど・全く利用しない主な理由のうち特に不安なこと（抜粋）

利用方法の周知不足

- 源内の存在自体を知らなかった。
- 業務で活用したいが、設定等使用方法が分からない。毎日締め切り業務に追われ余裕がない状況下、一切レクチャー等はなく、独学で一から始めないといけない。分かりやすい設定や操作の仕方等、情報提供してほしい。
- 源内を使用してみたいが、現状Copilotが使い慣れており、手が出しにくい。源内に習熟する機会を逃してしまいそうな点を危惧している。源内が特に長けた分野での使い方を知りたい。
- 定期的に講習をテーマを決めて基本パートも繰り返しつつ実施していただけるとありがたい。

機能・精度への不安

- 使用したこともあるが、期待通りの結果が得られにくい。
- 回答内容に誤りがある可能性があることを考慮すると、最初から自分で考えたり、検討した方が良いように思えてしまうため。
- 最終確認と判断は人であること。今までよりもさらにプラスαの手間と時間がかかること。ショートノーティス短時間の締め切り作業依頼には対応できないこと。
- 国会対応などとにかく短時間で過去答弁を探すことが求められる中で一回プロンプトを回すのに10~15分も待ってられない。
- 利用したいと思える機能がない。

情報セキュリティへの不安

- 業務で使用する場合、どこまで個人情報や機密性の高い情報を入力してよいかわからない。
- 送信した情報の保存・消去を含む本AIの仕組みを詳細に把握できていないため、安全性を自己で判断しにくい。
- 国会担当をしているが国会関係などの情報を打ち込んでいいのか分からない　情報が漏洩した際に責任が持てない。
- データが外に漏れないか怖い。

生成AIの利用そのものへの不安

- 特定の法律を指定し、特定の文言が内在するか精査し結果の出力を求めたところ、なぜだか、極一部の条文のみを勝手に選んで精査し結果を出力した。また、聞いてもないのに、省令についても同様に一部の条文のみを精査し結果を出力した。なお、政令については全く出力されなかった。法律の全条文を読み込ませればある程度正確な出力が得られるのかもしれないが、法令に係る業務には信頼性が低すぎて怖くて使えない。（なお、源内以外のAIでも同じ傾向があると感じている。）
- 自分が作成しなければならない書類の土台作成を生成AIに依頼してよいのか葛藤がある。
- 自身の文章構成力を十二分に生かしたい為。

その他

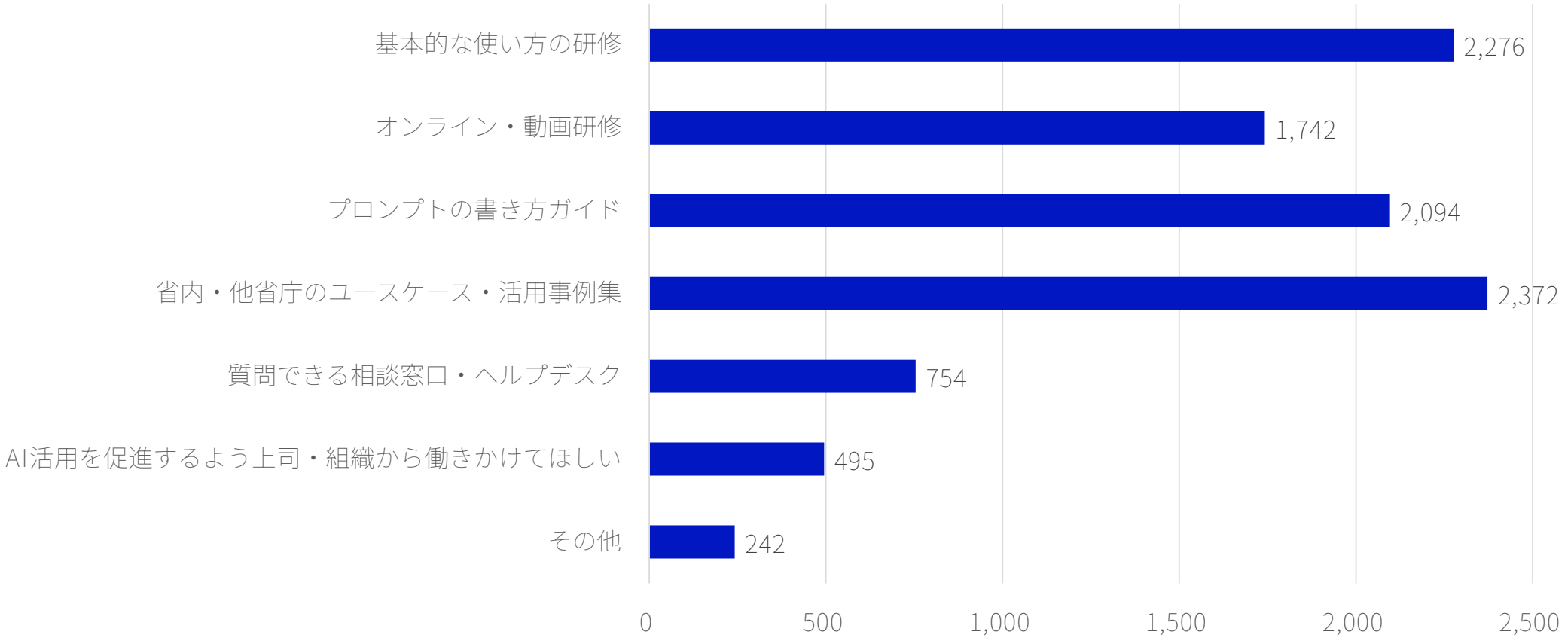
- AIを活用する側の資質しだいと思うが、能力のない職員が単に楽するためのツールに成り兼ねないか疑問に思っている。楽をして他の業務にその分を傾注するのであれば問題ないが、周囲には楽をして終わりの職員も見受けられ、勤務時間を持て余しているような状況は好ましくない。監督する上司等がしっかり業務調整を行い業務の平準化等を行い業務改善に繋げていく必要があると考える。
- 他のAIサービスと比較して優れている点を明確にして頂きたいです。例えば、現在、使用しておる他のAIサービスは、行政に関わる法令の解釈について時折誤回答する事があるが、源内は誤回答がない等、源内を使用するメリットを知りたいです。
- どの程度の課金まで許容されるのかについて事例があればほしい（使いすぎなのかの参考になるため）

© Digital Agency, Government of Japan

実施して欲しいサポート・研修要望

サポート・研修要望として最も多いのは「省内・他省庁のユースケース・活用事例集」、次いで「基本的な使い方の研修」「プロンプトの書き方ガイド」など。

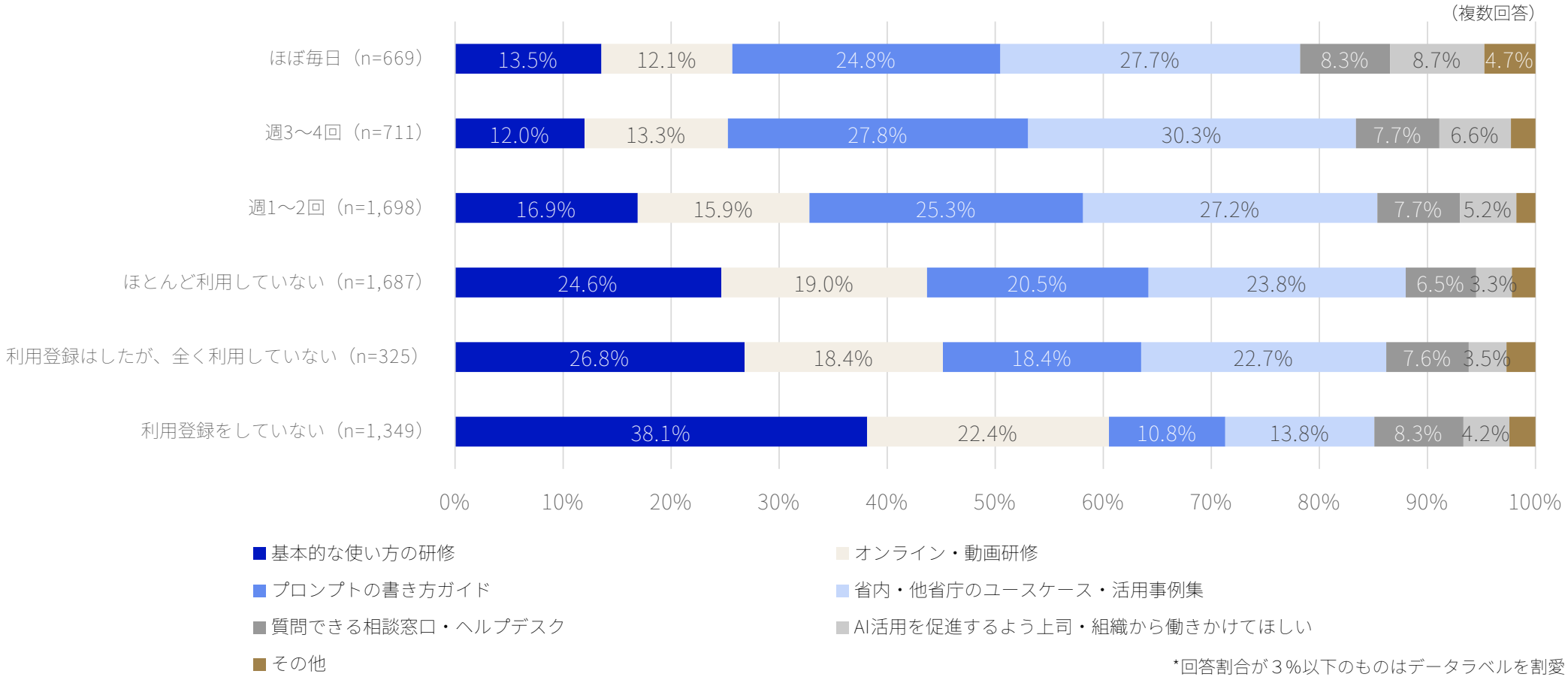
n = 6,439 （複数回答）



© Digital Agency, Government of Japan

利用頻度×サポート・研修要望

サポート・研修要望で最も割合が高いのは、週１～２回以上利用する職員は「ユースケース・活用事例集」、次いで「プロンプトの書き方ガイド」。「ほとんど・全く利用していない」「利用登録をしていない」職員は「基本的な使い方の研修」。



*回答割合が３%以下のものはデータラベルを割愛

© Digital Agency, Government of Japan

源内に追加・改善して欲しいアプリや機能（抜粋）

ファイル作成の質向上・ファイル制限の撤廃

- pptやword等、文書ファイルを直接作成する機能
- ファイルサイズの上限、ファイル種別、ファイルの数の制約の緩和
- 添付ファイルの容量上限を増やしてほしいです。容量の大きい資料や複数の資料をまとめて扱う際に制限がかかることがあり、業務上の利便性向上につながると考えます。
- イメージパースの作成など、短時間で画像生成が出来ると非常にありがたい。もっと数多く、大容量のデータのアップロードに対応して頂けると大変助かります。例えば、災害対応での数十件のメールなどを一気に読み込ませ、時系列を作成した上で分析するなどが出来ると大いに役立つと思います。

プロンプト・ユースケースの充実

- プロンプトの書き方に慣れていないこともありますので、プロンプトの書き方一覧があると とても助かります。
- よく使われているプロンプトの定型文があるとよい。
- 通常の業務に即したプロンプトの提供をお願いしたい。（試行錯誤は楽しい反面、時間がかかる）
- マニュアルや研修動画にあるように、プロンプト例やテンプレート集が実装されていれば便利だと思った。
- よく使うプロンプトの組織内共有などの機能があれば嬉しいです。

アプリの一元化

- アプリが乱立しすぎている気がする。機能がさほど変わらないような気がするのでそうであればチャット機能に一元化してほしい。
- アプリが複数ありやや煩雑。チャットでわからないことについてテキストを打ち込んだあとに、「こちらのアプリに聞いてください」というような多層の入力になっているので、１つに統一してほしいです。
- AIアプリで色々できるようだが、正直やりたいことに対しどれを使えばよいかの判断が手間である。源内へチャットで相談したら、AIアプリのここを使うと良いというのを案内してくれるとよいと思った。

最新データの取得

- 最新のインターネット検索に基づく情報やURL指定先の情報も踏まえた結果出力ができるようになってほしい。
- カットオフが古い上に最新の情報をweb検索する機能は備わっていないように見えたため、法令等の話はできないと思われます。年次で更新してもらうか、他のLLMのようにweb検索をする機能を付けてほしい。
- インターネットに載っている法令の検索についてはインターネットでもできるため、政府職員しかアクセスできないという利点を生かし、インターネットに公表されていない通達等も検索できるようにしてほしい。

その他

- AIエージェントを付けてほしい（chatGPTworkやclaudeCoworkのようなもの）
- UIをもう少し改善してほしい。特にAIアプリ・スキルセット（他のAIでは代替できなさそう）で実行までのアクセスを容易にしてほしい
- SharePointの内の格納データも源内でAIを活用できるようにしてほしい。
- 質問をすると、下部にコストが表示されるのが気になります。利用に応じて費用がかかるというのは、政府予算に影響するのか、そのような意味と影響があるのか気になる人も多いと思うので、周知されてはどうかなと思いました。
- AIを利用することが悪だという風潮はまだあるのでその点を改善するような文化の醸成も必要になると思います。

© Digital Agency, Government of Japan

デジタル庁
Digital Agency

© Digital Agency, Government of Japan